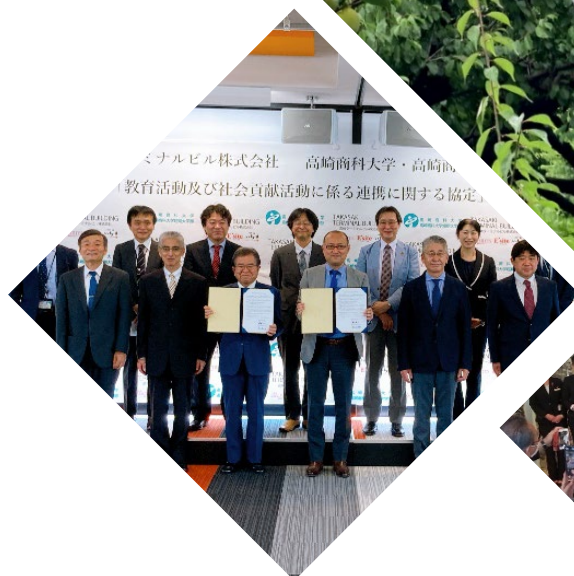




2021年度成果報告書

「地と知から(価)値」を創出する
地域密着型大学を目指して



こえる人、こえる大学



「地と知から（価）値」を創出する
地域密着型大学を目指して

はじめに

ご挨拶

2021年度、高崎商科大学(TUC)は開学20周年でした。コロナ禍により記念の行事は行えませんでした。日頃の本学らしい地域連携活動は制約を受けながらも取り組むことができ、ここに「事業成果報告書」として刊行することができました。地域のみなさまのご理解とご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

地域社会の持続可能な発展のためには、なによりも人材とりわけ未来の担い手であります若者が地元で活躍してくれることだと思います。今年も3月には、恒例の「地域創造フォーラム2022」を開催、「学生のエンパワーメント」をテーマにTUCと県内他大学の学生による共同事例発表、またパネルディスカッションが実施され「ふるさと人材」の確かな成長に大きな期待を抱かせてくれました。

本学は、地元地域のさらなる活性化と発展のために、今後とも全力を挙げて取り組んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部 学長 瀧上 勇次郎

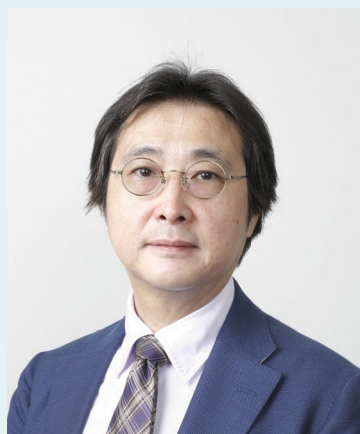


この「成果報告書」は、高崎商科大学（TUC）の地域連携活動をご紹介するために、地域連携センター（本センター）が2021年度の一年間に行った活動を要約し、作成したものです。

本センターは、TUCが平成25（2013）年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択後、その推進拠点として平成26（2014）年度に設置されたものです。当該補助事業は既に終了しましたが、これまでの連携活動を踏まえ、より発展的な地域を志向した教育・研究・社会貢献に邁進してまいります。

2021年度は、2020年度同様に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響もあり、例年に比べて、フィールドワークを伴う活動は減少しましたが、2020年度の経験も踏まえ、ニューノーマル（新しい日常）に対応した地域連携活動を実践した一年となりました。本センターが地域コミュニティの中心的な役割を担えるよう、今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

地域連携センター長 前田拓生



目次

C O N T E N T S

事業概要	COC事業概要・事業目標1・事業目標2	1
	COC事業推進	2
事業活動報告	会議開催報告・CPC研修会・CPC紀要	3
地域創造フォーラム基調講演	大学と地域による連携のミライーニューノーマルからシン・ノーマルへー	4-8
3つの柱	教育・研究・社会貢献	9
教育	教育概略図・2021年度地域連携事業一覧	10-11
研究	地域志向研究・教育改革研究	12
	富岡製糸場周辺における観光客満足度調査	13
	地域連携センター研究会	13
公開講座等実施	公開講座	14
	TUC起業塾	15
次世代リーダー 育成プロジェクト	ビジネスアイデアコンテスト	16
	学内SDGs推進 さくらプロジェクト	17
	地域連携センター学生スタッフ	18
	学習支援ボランティア・部活動支援	19
	高崎市内私立大学・短期大学 連携事例発表会	19
	工女おもてなしプロジェクト	20
	模擬プライダル（富岡製糸場 西置繭所）	21
	「県内農家応援プロジェクト」梅の収穫とレシピ考案	22
	富岡製糸場内ARコンテンツ制作	23
	城町商店街 顔はめパネル・フォトスポット	23
社会 貢献	「道の駅しもにた」活性化委託事業パン考案	24
	甘楽町AQUAデザインプロジェクト	25
	甘楽町美味しいものマップデジタル化事業	26
	藤岡市「桜山公園」整備に伴う委託事業	27
	「ふじおか未来探究」学習支援	28
	産学連携インターンシップ	28
	外国人の日本語能力修得支援の推進 Zoomによる日本語能力試験N3学習会	29
	群馬県 補助事業 若者人生設計応援セミナー	30
	地域創造フォーラム 地域連携活動を通じた学生のエンパワーメントー地域連携の「シン・ノーマル」ー	31
	高崎市内4大学 地域貢献担当者情報交換会	32
その他の取り組み	「ふるさと学習」南八幡小学校・中学校	32
	「町たんけん」南八幡小学校	33
	ボランティア活動	33
資料	COC事業アンケート結果	34

／ さあ、大学を飛び出そう ／



高崎商科大学版COC事業概要

地と知から（価）値を創出する地域密着型大学を目指して

本学が位置する群馬県西部は、日本各地でみられるように、若年人口の減少や高齢化、過疎化といった課題を抱える地域です。一方で、上信電鉄上信線沿線の地域の高崎市・甘楽町・富岡市・下仁田町には多くの歴史的文化的資源が点在しており、人口減少が進む中でも、多くの旅行者が訪れることが期待される場所でもあります。

高崎商科大学では、開学当初より、地域が抱える課題を捉え、地域住民や市民にとって良い暮らしやまちづくりにつながる取り組みを実施してきました。2013（平成25）年の文部科学省「地（知）の拠点整備事業（以下、COC事業）」採択以降はこれまでの活動を基に、コミュニティ・パートナーシップ・センター（現・地域連携センター）を軸としながら、連携自治体・企業と共に、全学的な教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。現在ではそれらの連携に加え、高崎市内4大学（高崎健康福祉大学・高崎経済大学・新島学園短期大学・本学）からなる大学間交流を加速させることで、異なる大学、異なる学部が学生が交わる機会を創出し新たな展開が生まれはじめています。



【事業目標1】

「上信電鉄沿線地域」における「観光まちづくり」とそれを推進する「人づくり」



1897（明治30）年に開業した上信電鉄は、120年以上にわたって群馬県西部の交通を支えてきました。開通当初から物資の輸送に利用され、以降、地域の通勤・通学の足として利用されたものの、モータリゼーションの進展など社会経済の変化の中で、利用者は減少に転じています。現在では、経営的に大きな苦戦を強いられる中、県西部の公共交通機関として、群馬県や沿線自治体から財政的支援を受けながら存続しています。一方で、沿線には、富岡製糸場（富岡市）や楽山園（甘楽町）といった観光資源も多く点在します。特に、富岡製糸場は2014（平成26）年にユネスコ世界遺産、上野三碑（高崎市）は2017（平成29）年にユネスコ世界の記憶に登録され、本地域は世界的にも注目される場所となりました。

本学は沿線地域に唯一位置する高等教育機関であることから、地域の発展を支えてきた上信電鉄の活用と沿線の活性化に向けて、上信電鉄株式会社、COC事業連携自治体、地元まちづくり団体等と連携し、沿線地域に存在する地域資源を活用したまちづくりについて検討を行っています。様々な専門知識を有する本学の知を自治体、企業、まちづくり団体等に還元し、協力体制を築くことで、広く、地域課題解決に資する人材育成を目指しています。

【事業目標2】 点から線、線から面へ継続的取り組み

地域と大学の密な連携を図るべく、地域連携推進部署として、2014（平成26）年4月に「コミュニティ・パートナーシップ・センター（CPC）」を設置。2018（平成30）年4月には学内組織の改組に伴い、「地域連携センター」に名称変更されました。本学のシーズと地域のニーズを結びつけ、COC事業の中核的な役割を果たす部署であり、「点」として存在している大学と地域を結びつける役割を担っています。なお、本センターの詳細については、次頁をご参照ください。

また、2014（平成26）年には富岡市内に、2015（平成27）年には高崎市内にそれぞれ、サテライト（地域活動拠点）を開設しました。それぞれのサテライトを足場にする中で、本学学生・教職員と自治体・地元まちづくり団体とのスムーズな連携の実現を図っています。

さらに、上記上信電鉄上信線沿線地域におけるそれぞれの自治体との連携はもちろんですが、広く沿線地域の課題を捉えるべく、地域の声がダイレクトに大学に届く仕組みとして、地域連携委員会・地域推進会議を組織しました。地域推進会議は自治体から、地域連携委員会は観光協会やまちづくり団体等が参加し、地域課題の可視化と、地域での大学の在り方について考える場としています。

それぞれの自治体という「点」を結ぶことで、「線」へ。そして、地域を県西部という「面」で捉えたハード・ソフトのネットワーク作りを行っているところです。

地域連携センターを軸とした全学的な地域連携へ

なお、CPCは2018（平成30）年度の大学組織改編に伴い、名称を「地域連携センター」に変更しました。変更に伴い、大学における地域連携活動のサポートに加え、短期大学部の教職員・学生による地域研究・地域活動のサポートを実施することとなり、本学キャンパス内における地域連携業務全般を担うこととなりました。

文部科学省COC+事業『持続的・地方創生共同体形成プログラム：若者定着・県域総ぐるみ計画』参加校

【事業活動報告】

会議開催報告

定期的に開催される地域連携センター会議では、業務検討や報告を通じて、地域連携業務の推進につなげています。

No.	会議開催日	主な議題
1	2021年 4月14日（水）	2021年度センター年度方針及び事業実施計画について
2	2021年 5月19日（水）	商大シネマの開催、公開講座（前期）の募集状況について
3	2021年 6月16日（水）	ビジネスアイデアコンテストの開催について
4	2021年 7月21日（水）	高崎ターミナルビルとの連携協定の締結について 地域推進会議・地域連携委員会・センター主催研修会について
5	2021年9月22日（水）	CPC研究会の開催について 地域創造フォーラムの開催について
6	2021年10月14日（木）	模擬ブライダル運営協力について 富岡製糸場観光満足度調査について
7	2021年11月18日（木）	地域創造フォーラムの日程について
8	2021年12月15日（水）	地域志向研究費の応募について
9	2022年 1月19日（水）	ビジネスアイデアコンテスト・CPC研究会の実施報告について
10	2022年 2月16日（水）	甘楽町観光PRサイトの閲覧について
11	2022年 3月9日（水）	2022年度地域連携センター事業計画・2022年度リカレント講座の開講について

CPC研修会

2013年度のCOC事業採択当初より、COCならびにCOC+の事業推進に関する高崎商科大学教職員の理解を深め、今後の地域連携のあり方を考えるきっかけとすべく、地域連携センターが主催となり「CPC研修会」を開催しています。

テーマ:「幸せ経営」「幸せ地域通貨」のすゝめ

～主観的ウェルビーイングの向上が企業と地域の活性化の切り札に～

講師: 広島県立鞆啓大学ソーシャルシステムデザイン学部 学部長・教授 保井 俊之 氏

日程: 2021年9月15日 場所: 421教室、Zoom 参加者: 教職員 42名

概要: 主観的ウェルビーイングとは、人々が自身の人生を「認知的」に、そして「感情的」にどのように評価するかで構成され、人生の満足度や感情などで表現させる。第一部は、「「幸せ経営」のすゝめ」と題し、企業経営者とその家族がPERMAや前野幸福四因子を手がかりに主観的ウェルビーイングを高め、従業員との人間関係のつながりを強めていくことが、企業全体の主観的ウェルビーイングを高めるために重要な事、第二部では、「「幸せ地域通貨」のすゝめ」として、地域を持続可能で幸福にする社会システムデザイン・地域のウェルビーイングを向上させる「利他・贈与・共感・体験・大義のおカネ」が必要であることに関して講演頂き、持続可能な地域社会を築くには、地域内における資金循環が重要であり、その為には他者理解やウェルビーイングを通して地域活性化について大学として如何に取り組んで行けばよいかの指針を示していただいた。

CPC紀要

2013年度から開始したCOC事業における成果報告を発表する媒体として「CPC紀要」を創設し、2015年3月に創刊号を、2021年7月30日に第7号を刊行しました（以下、掲載）。

区分	論 題	執筆者
論文	日本語修得を目指す外国人への日本語学習支援に関する実践的研究	竹上 健
	富岡製糸場を訪問する上信電鉄利用客に関する調査研究	前田 拓生
	大学の学外活動等における地域との連携に関する法的考察－事例分析を中心として－	豊田 正明
	2022年度「模擬ブライダル」世界遺産富岡製糸場 国宝西置繭所にて －コロナ渦のホスピタリティ業界感染予防策考察とNEW BRIDAL STYLEの提案－	森川 幸紀雄
研究ノート	製糸工場に勤めた女性たちの労働と生活－戦後の片倉工場富岡工場を事例に－	川又 彩夏
事例研究 事例報告	遠隔講義と限定配信を併用したオンライン公開講座「上野三碑」の成果と課題	熊倉 浩靖
	地域連携プロジェクトの最適化とプロジェクトを通じた「課題解決型学習」の効果に関する研究－甘楽町における地域連携事業を事例として－	松元 一明
	オンラインでのアート・ワークショップを通じた地域発信の可能性 －「アートツアー オンラインお絵かき美術館」の事例から－	前沢 知子
講演録	高崎商科大学主催 地域創造フォーラム2021基調講演「コロナ渦と大学地域連携」	西川 一弘

大学と地域による連携のミライーニューノーマルからシン・ノーマルへー

福知山公立大学地域経営学部准教授／北近畿地域連携機構市民リエゾンユニット長 杉岡秀紀氏

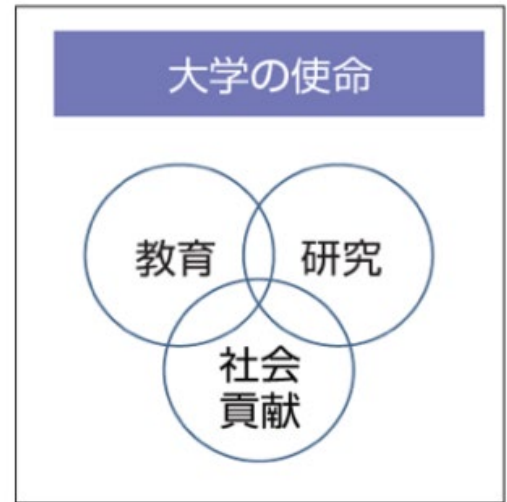
はじめに

2019年末から世界中で蔓延する新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）により、我々の生活や働き方は大きく変容した。大学についても同様である。特に2020年度についてはオンライン講義やハイブリット講義が主となり、入学式や卒業式は中止、クラブやサークル活動は縮小、学園祭や就活もオンラインとなった。また、研究についてもいわゆる訪問調査など現地に訪れての研究活動が非常に制限されるに至った。

小稿で取り上げる大学と地域との連携についても、イベントなどは軒並み中止や延期、あるいはオンライン開催となった。しかし、このオンライン化が進んだお陰で、リモートワークや副（複業）業、ワーケーション、地方移住などいわゆるニューノーマルな働き方や暮らし方への理解や取組みが加速度的に進んだのも事実である。その意味では、失ったものも多かったが得たものもあり、一長一短というところであろうか。

大学のミッション社会（地域）貢献

ところで、大学にとって社会（地域）貢献はいつからミッションになったのだろうか。管見の限りでは、文部科学省の中央教育審議会の答申「我が国の高等教育の将来像」（2005年）において「大学は、全体として 1. 世界的研究・教育拠点、2. 高度専門職業人養成、3. 幅広い職業人養成、4. 総合的教養教育、5. 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、6. 地域の生涯学習機会の拠点、7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）等の各種の機能を併有するが、大学ごとの選択により、保有する機能や比重の置き方は異なる」と言及されたのが初出と思われる。そして、2006年に教育基本法¹、2007年に学校教育法²が改正されたことを受け、図1のように、教育、研究に加え、社会（地域）貢献が大学のミッションに位置付けられるに至った（杉岡 2022 a）。



(出所) 一般財団法人 公立大学協会 (2018)

図1 大学の使命（ミッション）

事実、この時期あたりから各大学で地域連携センターや社会連携センターといった地域連携のための附属機関、大学と自治体による包括協定が増加し、総務省による「域学連携事業」や文部科学省による「地（知）の拠点整備事業（COC）」、同「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」など、地域連携を促進させるための国の支援策が多く登場するようになった。

小稿のテーマに関連が深い地域系や政策系の学部学科も増加し、公立大学だけをピックアップしても表1のとおり18大学ある。最近ではさらに国公私問わず、地域協働³や地域創生、地域デザインを冠した学部が増加している。加えて、2005年には産学連携学会、2008年には地域活性化学会、2016年には地域連携学会といった具合に、地域を冠する学会も相次いで設立されている。

¹ 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする（教育基本法 第7条）。

² 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする（第83条 学校教育法）。

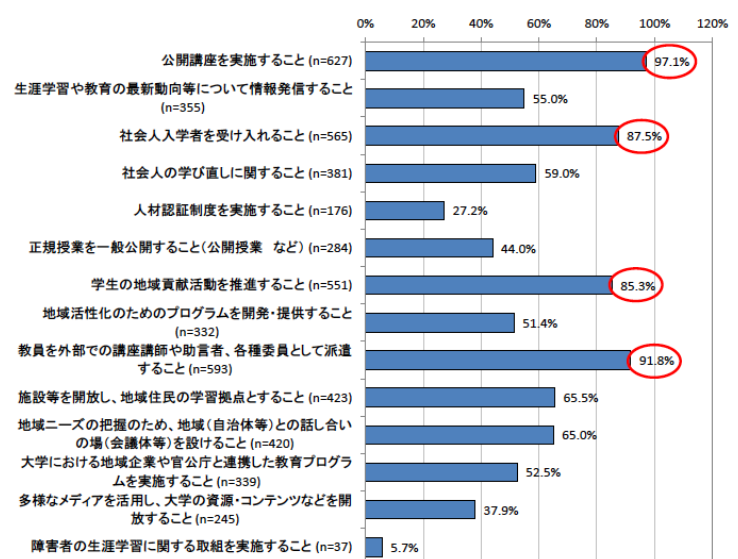
³ 例えば、2015年に高知大学地域協働学部、2016年に宇都宮大学地域デザイン学部、愛媛大学社会共創学部、佐賀大学芸術地域デザイン学部、大正大学地域創生学部、福井大学国際地域学部、宮崎大学地域資源創成学部、2017年に島根大学人間科学部など。

表1 地域系・政策系の学部学科を擁する公立大学

大学名	学部学科名	設置団体
青森公立大学	経営経済学部地域みらい学科	青森市
岩手県立大学	総合政策学部	岩手県
宮城大学	事業構想学群地域創生学類	宮城県
高崎経済大学	地域政策学部	高崎市
東京都立大学	都市環境学部観光科学科	東京都
山梨県立大学	国際政策学部総合政策学科	山梨県
長野県立大学	グローバルマネジメント学部・公共経営コース	長野県
静岡文化芸術大学	文化政策学部文化政策学科	静岡県
京都府立大学	公共政策学部公共政策学科	京都府
福知山公立大学	地域経営学部	福知山市
芸術文化観光専門職大学	芸術文化・観光学部	兵庫県
奈良県立大学	地域創造学部	奈良県
福山市立大学	都営経営学部	福山市
島根県立大学	地域政策学部	島根県
北九州市立大学	地域創生学群	北九州市
長崎県立大学	地域創造学部	長崎県
熊本県立大学	総合管理学部	熊本県
名桜大学	国際学群観光産業専攻	北部広域市町村圏事務組合

(出所) 中田 (2021) より筆者加筆

それでは、大学と地域との連携については具体的にはどのような取組みが存在するのであろうか。文部科学省(2018)によれば、図2のように14項目が確認できる。上位3つは(1)公開講座を実施すること(97.1%)、(2)教員を外部での講座講師や助言者、各種委員として派遣すること(91.8%)、(3)社会人入学者を受け入れること(87.5%)となっている。他方、下位3つは(1)障害者の生涯学習に関する取組を実施すること(5.7%)、(2)人材認証制度を実施すること(27.2%)、(3)多様なメディアを活用し、大学の資源・コンテンツなどを解放すること(37.9%)となっている。



(出所) 文部科学省 (2018)

図2 地域社会に対する大学の貢献の取組み

小稿では上位の4番目の項目「学生の地域貢献活動を推進すること（85.3%）」という取組みが前回の調査（2011年度）より最も伸びていることに注目したい（表2）。というのも、この変化から現行の大学と地域との

連携は大学や教員主導から学生主導に主体が移行しつつあることを窺えるからである。そこで、以下では学生の地域貢献活動を推進することを重視している一例として、筆者が務める福知山公立大学の事例を紹介する。

表2 大学と地域との連携の変化（2011→2017）

2011年度調査	2017年度調査	変化(伸び)
公開講座を実施すること(86.8%)	公開講座を実施すること(97.1%)	10.3%
教員を外部での講座講師や助言者、各種委員として派遣すること(76.0%)	教員を外部での講座講師や助言者、各種委員として派遣すること(91.8%)	15.8%
社会人入学者を受け入れること(74.3%)	社会人入学者を受け入れること(87.5%)	13.2%
学生の地域貢献活動を推進すること(63.5%)	学生の地域貢献活動を推進すること(85.3%)	21.8%

（出所）文部科学省（2012）、同（2018）より筆者加筆

福知山公立大学の地域連携事例

福知山公立大学は人口76,037人（2022年3月末現在）の福知山市が設置団体となり、「地域の大学、市民のための大学、世界と共に歩む大学」をスローガンに2016年に開学した京都府北部唯一の四年制公立大学である。前身の私立大学が2000年に同じ場所に開学したが、2016年に公立化した。

学部は地域経営学部（地域経営学科・医療福祉経営学科）と情報学部（情報学科）の2学部3学科であり、全学年で800人弱と小規模な大学であるが、教育・研究共に大学と地域との連携を全面に推し出している点に特徴がある。具体的には、両学部とも1年生から4年間かけてフィールドワークやPBL（Project Based Learning）を中心とする「地域協働型教育研究」を全面展開している。また、正課だけでなく企画から実践までを学生主導で行う課外の「学生プロジェクト」に力を入れている。コロナ禍の2020年度こそ5プロジェクトまで減少したが、2021年度には14プロジェクトとなるなど、毎年度10を超えるプロジェクトが立ち上がり、正課・課外ともに学生主導による地域との連携が進んでいる。

大学全体の地域貢献については、2016年の開学時から多様な取組みが展開されてきた。具体的には全学組織である北近畿地域連携センター（2020年度からは北近畿地域連携機構）が核となり、公開講座や教員の委員会等派遣はもとより学長塾、社会人入学者、高校生向けの地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」、自治体と連携した

対話事業、産業創造プログラムなど、毎年多様かつ多層的な取組みを実施してきた。

そして、近年では、教員主導に止まらず、学生主導による地域貢献事例も増えている。例えば、福知山市内の高校生・大学生が実行委員となり、福知山にゆかりのある若者がまちづくりをテーマに学びの場やアクションの機会を作る「福知山みらい会議」、京都府北部の高校生が学校の枠を越えて集い、地域のためにできることを考え、小さなアクションを起こす「高校生みらい会議」、近畿の公立大学生が集い共通テーマについて討議する「近畿LINKtopos」、といった具合である。言うまでもなく、これら事業においても、コロナ禍を受け、zoomやSlackなどのオンラインツールを最大限活用し、物理的な距離を超える工夫がなされている。そして、連携先については大学のみならず、近隣や都市部の高校や経済団体などを巻き込んだの高大社連携による事例が増えている（杉岡 2022b）。その結果、近年では、スタッフはもとより参加者も市外から多く集まるようになり、一種の関係人口（特定の地域に継続的に関心を持ち、関わるよそ者）づくりへと繋がるようになってきたのが目下の成果と言えるだろう（杉岡 2021）。

蛇足であるが、日本経済新聞社が隔年で実施する全国の大学対象の「大学の地域貢献度全国ランキング2021」（761大学中514大学が回答）によれば、2021年度の福知山公立大学の総合順位は90位（京都府で5位）とのことで

ある（日本経済新聞社 2021）。ただし、公立大学に限っては全国12位（近畿で5位）、総学生数2,000人未満の大学内では8位までランクアップする。ランキングの上位大学はいずれも規模が大きく、かつ伝統校ばかりである。そのことを鑑みれば、福知山公立大学は後発組かつ小さな大学の挑戦であるが、地域連携については比較的健闘していると言えるだろう。

ニューノーマルからシン・ノーマルへ

以上見てきたように、日本における大学と地域との連携は、大学主導から始まったものの、近年は学生主導や高大社連携へと移行しつつあり、かつコロナ禍を経て、課外やオンラインといった新しい手法を注目されつつあることを紹介した。その意味では、表3で整理した通り、大学と地域との連携の分野においても、コロナで定着したオンラインを単に活用した「ニューノーマル」に留まらず、まさにあらゆる多様性を包含した「シン・ノーマル」な連携や取組みが求められる時代に突入した、と見ることができるだろう。なお、この「シン」という言葉には、新・真・芯・信・伸・深・神・心など様々な漢字が考えられ、どのようなシンを軸にするかどうかは、各大学のビジョンやミッションに委ねられる。



基調講演の様子

結びに、近年、組織のデジタル化を意味するDX（デジタル・トランスフォーメーション）という言葉になぞらえて、持続可能な地域へと変化、進化させていく「LX（ローカル・トランスフォーメーション）」という概念が登場し、時々目にするようになった（受田 2021）。コロナ禍によって大学における教育や研究アプローチが大きく変容したように、今後、大学と地域との連携についても、「競争」のみならず、「共創」が重視されるなど、今後もどんどんと変化あるいは進化を遂げていくことであろう。その際のポイントあるいは推進力は、おそらく教職員に留まらず、「学生」「高大社連携」「課外」「オンライン」がキーワードあるいはヒントになると思われる。このことを最後に改めて強調し、本稿のまとめに代えたい。

表3 ノーマル／ニューノーマル／シン・ノーマル類型と地域連携

項目	ノーマル	ニューノーマル	シン・ノーマル
事業タイプ	イベント型	イベント型 (オンライン含む)	イベント型・事業 (オンライン含む)
主体	大学(教員)主導	大学(教員)主導 + 学生サポート	学生主導 + 大学(教員)サポート
正課・課外の別	正課中心	正課 + 課外	課外中心
開放性	自前主義	自前主義 + 域学連携 (高校除く)	高大社連携
地域連携の視点	社会貢献視点	社会貢献 + 競争視点	共創視点

(出所) 筆者作成

《参考文献》

一般社団法人公立大学協会（2018）『未来マップのための16の課題』

受田浩之編著（2021）『新時代LX－持続可能な地域の未来を切り拓く－』南の風社、2021

杉岡秀紀（2021）「ニューノーマル時代における大学と地域との連携による関係人口創出・拡大のあり方－公立大学の役割に注目して－」『都市とガバナンス』36号、日本都市センター、39-45頁

杉岡秀紀（2022a）「「地方の時代」から「地方公立大学の時代」へ－LXの担い手としての地方公立大学－」『月刊自治研』1月号、自治研中央推進委員会、24-32頁

杉岡秀紀（2022b）「高大連携による探究的な学習についての現状と課題－京都府北部の公立高校の事例研究を踏まえて－」『福知山公立大学研究紀要』第6巻第1号、福知山公立大学、93-120頁

中田晃（2021）「観光振興と公立大学－期待される役割と可能性－」『観光文化』250号、日本交通公社、4-8頁

日本経済新聞社（2021）「大学の地域貢献度全国ランキング2021」『日経グローバル』10月4日号

文部科学省（2012）『平成23年度 開かれた大学づくりに関する調査研究』

文部科学省（2018）『平成29年度 開かれた大学づくりに関する調査研究』

《プロフィール》

杉岡 秀紀（すぎおか ひでのり）

福知山公立大学地域経営学部准教授・北近畿地域連携機構市民リエゾンユニット長。

奈良県生まれ。同志社大学経済学部卒業、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了、同後期課程中退。専門は公共政策、地方自治論。

内閣官房行政改革推進本部事務局参事官付、地域公共人材開発機構事務局、京都府立大学公共政策学部講師・地域連携センター副センター長を経て、2016年より現職。

兼職に総務省主権者教育アドバイザー、大阪公立大学大学院都市経営研究科・島根県立大学地域政策学部非常勤講師、公立大学協会LINKtopos2021企画チーム委員など。

主な著書（共著・編著）に『持続可能な地域実現と大学の役割』（白石克孝・石田徹編、日本評論社、2014）『地域力再生とプロボノ』（杉岡秀紀編、公人の友社、2015）、『合併しなかった自治体の実際』（杉岡秀紀・原田晃樹編、公人の友社、2017）など。





【教育】地域に根差し、地域に貢献できる人材、地域問題を解決できる人材育成

地域をフィールドに、学生の主体性と課題解決能力を高めるために全学体制でカリキュラム改革・教育方法の質的変換を実施。

■ カリキュラム改定

地域を志向した教育に向け、カリキュラムを改定。授業内容に合わせて、「地域関連科目」と「地域関連学修科目」を設定。

地域関連科目は、半期15回の内、ほぼ毎回の授業で地域を対象とした講義を実施。地域を志向するための基礎力を身に付ける。

地域関連学修科目は、半期15回中、数回の授業で地域を対象とした講義を実施。専門的な理論と地域を結びつける力を身に付ける。

■ コース再編成

地域活性化を担う人材を養成する専門コースとして、「観光まちづくりコース」を新設。地域産業の理解や企業の在り方、観光まちづくりにおける理論について学び、地域に新たな価値を創出する人材を育成する。

■ アクティブ・ラーニングの導入

地域で学び、グループワークや課題解決学習（Problem Based Learning 〈PBL〉）に取り組むことで、自ら考え行動し、仲間と協働して物事を進める力を身に付ける。

【研究】地域課題を「見える化」し、地域の優れた資源を「見える化」させ、資源を「魅せる化」へ

地域が抱える課題を「見える化」する地域課題研究。地域の優れた資源を「見える化」する地域資源研究。資源を「魅せる化」することで、課題解決につなげる地域志向研究。これら3つのアプローチにより、地域活性化のサイクルに寄与する。

■ 地域課題研究

上信電鉄沿線地域（高崎市・富岡市・甘楽町・下仁田町・藤岡市）を対象として、地域の「今」や住民意識などを調査分析することで、地域が抱える課題を発見・可視化させ、研究課題として設定する。

■ 地域資源研究

高崎市・富岡市を含む上信電鉄沿線の観光資源の在り方を調査し、地域活性化の原動力となり得る隠れた地域の魅力を発掘し、その活用方法を探求する。

■ 地域志向研究

マーケティング、会計、観光、経営など本学教員の専門性を活かした調査・研究を行い、地域の課題解決や地域活性化に役立つ理論や実践プログラムを導き出す。

【社会貢献】「点」として存在する資源を「線」さらには「面」としてつなげる

連携自治体と取り組む「地域活性化プロジェクト」、地域を担う次世代リーダーを育成する「次世代地域リーダー育成プロジェクト」、大学の知を広く開き、生涯学習の機会を提供する「公開講座」。これらの成果を集積し、地域と大学が支えあえる仕組みの構築を目指す。

■ 地域活性化プロジェクト

上信電鉄沿線地域（高崎市・富岡市・甘楽町・下仁田町・藤岡市）において、地域の人や組織と連携した教育研究活動を通し、地域の課題解決による活性化を図る。

■ 次世代地域リーダー育成プロジェクト

地域の小中学校（南八幡小学校・城山小学校・南八幡中学校）や高等学校（藤岡中央高等学校）との連携活動を通じて小中学生・高校生・大学生といった、地域を担う次世代リーダーの育成を推進する。

■ 公開講座開催プロジェクト

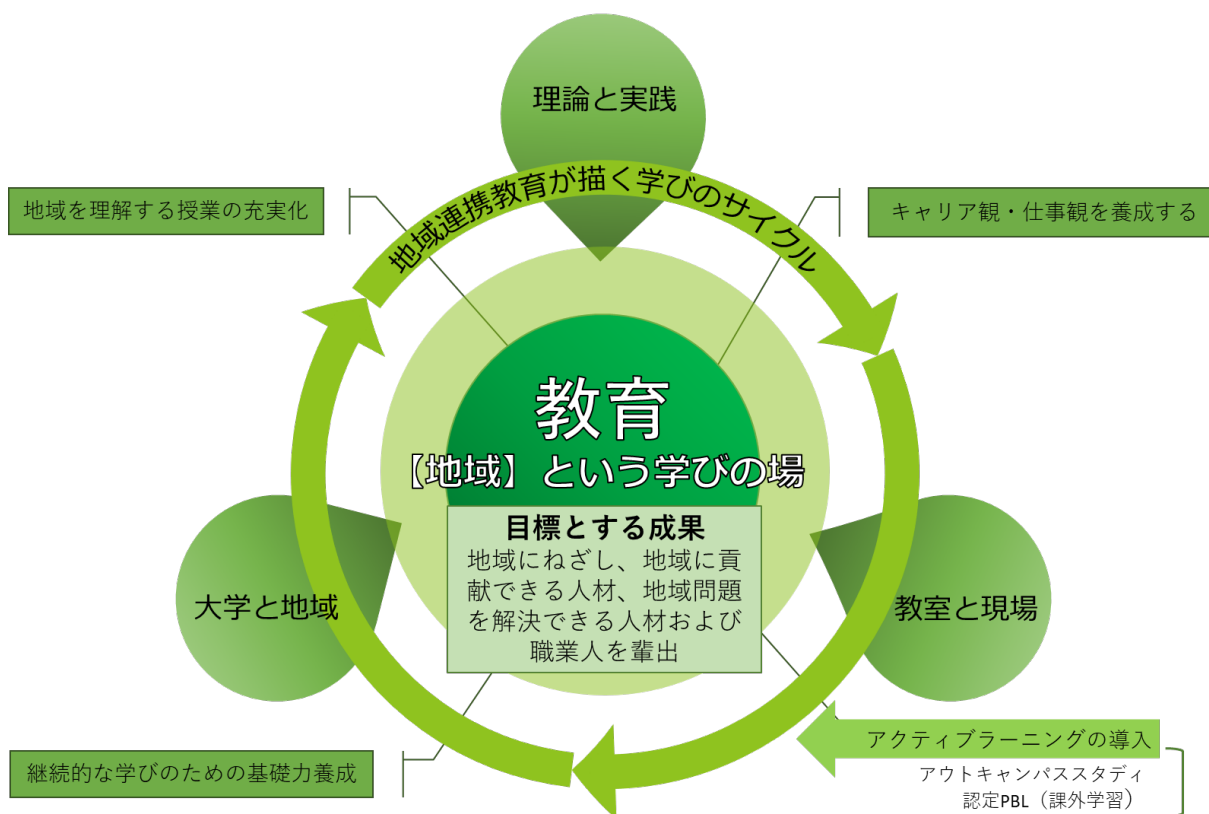
公開講座の開催を通じて、大学の知を広く内外に開き、地域のニーズに応じながら専門知識の分かりやすい普及・啓発に取り組む。

■ 双方向型人材バンクシステム

教育研究活動によって得た地域の人的資源を集積し、地域と大学が相互に支えあい、新しい価値を創出する仕組みを発展的に構築する。

【教育】

主に観光まちづくりコースにおいて展開する地域関連科目、地域学修科目を設置しています。さらには広く地域での学びを実践するための課外プロジェクトや、道の駅などの観光施設における長期インターンシップも実施しました。地域を担う人材育成のための全学的環境整備を継続的に進めています。



高崎商科大学は2013年度より、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、「地と知から（価）値を創出する地域密着型大学を目指して」というテーマのもと、地域と連携した教育・研究活動を推進しています。学生に対して実施したアンケートより、地域連携や地域をフィールドとした教育・研究・社会貢献を進めている事への関連性をアンケート結果から抜粋します。（33頁参照）



地域フィールドワークの拠点となる
『富岡サテライト』

富岡市富岡16-3
富岡製糸場まで徒歩4分

富岡サテライトは、以下のような利用がされています。

- ・地域の方との交流の場
- ・調査・研究の拠点
- ・フィールドワークの拠点
- ・各種プロジェクトの拠点
- ・地域団体等との打ち合わせの場 など

【教育】

高崎商科大学では、教育により学生の力を強化するために、以下のように地域連携を行っております。

- 「**地域**」を学ぶ 「地域を理解する授業の充実。地元群馬への関心を高め、地域を創造するための方法を学びます」
「**地域**」とつなぐ 「アクティブ・ラーニングの強化。
理論と実践、教室と現場、大学と地域をつなぐ往還的な学びを行います地域を理解する授業の充実」
「**地域**」で学ぶ 「プロジェクト型の学びを推進。地域の課題に自らアプローチし、解決につなげる学習を行います」

2021年度 連携事業一覧

位置づけ	事業名	連携先
高崎	高崎ターミナルビル共同企画「梅収穫プロジェクト」	高崎ターミナルビル
高崎	高崎ターミナルビル 協定式	高崎ターミナルビル
高崎	南八幡小学校まち探検	高崎市立南八幡小学校
高崎	ふるさと学習	南八幡中学校
高崎	ふるさと学習	南八幡小学校
高崎	タブレット設定支援	南八幡小学校
高崎	石踏みの路ハイキング	南八幡中学校
高崎	高信ビジネスアイデアコンテスト	高崎信用金庫
高崎	NPO・ボランティアフェスティバル	高崎市
高崎	上信電鉄 観光客アンケート	上信電鉄
高崎	国際ソロプチミスト日本東ジョン・ユース・フォーラム支援	国際ソロプチミスト高崎
富岡	模擬プライダル	富岡製糸場、マリエール高崎
富岡	富岡製糸場周辺における観光客満足度調査1日目（弘中・松元ゼミ）	富岡市役所観光交流課
富岡	富岡製糸場周辺における観光客満足度調査2日目（中鉢・松元ゼミ）	富岡市役所観光交流課
富岡	富岡製糸場内ARコンテンツ制作	富岡製糸場課・株式会社ProVision
富岡	富岡製糸場城町商店街 顔はめパネル・フォトスポット制作	城町商店街組合
富岡	富岡高校 探究活動	富岡高校
甘楽町	甘楽町多文化共生事業	甘楽町企画課
甘楽町	甘楽AQUAプロジェクト	甘楽町水道課
甘楽町	甘楽上州福島駅リニューアル事業	甘楽町企画課・産業課
甘楽町	小幡小学校出前授業	小幡小学校
甘楽町	産学連携インターンシップ	甘楽町都市農村交流協会
藤岡市	藤岡市「桜山公園」整備に伴う委託事業	藤岡市鬼石支所にぎわい観光課
藤岡市	藤岡みらい探究学習支援	群馬県立藤岡中央高等学校
下仁田町	「道の駅しもにた」活性化委託事業パン考案・販売	道の駅しもにた、下仁田町観光協会
群馬県	群馬県大学コンソーシアム	群馬県選挙管理委員会
群馬県	群馬県「若者人生設計応援セミナー」	群馬県
次世代	ビジネスアイデアコンテスト	しのめ信用金庫 CREATOR'S GUILD高崎カロエ
次世代	市内私立大学・短期大学連携事例発表会	高崎市産業創造館
次世代	他大学交流	高崎健康福祉大学ボランティア・ 市民活動支援センター学生スタッフ
次世代	工女おもてなしプロジェクト	富岡市、富岡製糸場
次世代	学習支援ボランティア	高崎市立南八幡小学校
次世代	学習支援ボランティア	高崎市立南八幡中学校
次世代	学習支援ボランティア	高崎市立城山小学校
次世代	部活動支援	南八幡中学校
次世代	部活動支援	寺尾中学校
次世代	部活動支援	吉井中央中学校
次世代	部活動支援	高崎第一中学校
その他	高崎市内4大学地域貢献担当者情報交換会	①高崎経済大学 ②高崎健康福祉大学 ③新島学園短期大学 ④高崎商科大学
その他	群馬フェア	イオンモール太田
その他	さくらプロジェクト	高崎市立塚沢小学校

2021年度は、学内の「地域志向教育研究費」及び「教育改革研究費」を活用し、本学が地域を志向する大学として、地域の課題解決と地域を担う人材育成のための研究を推進しました。各研究の結果、それぞれの現状が明らかになり、コミュニティ・パートナーシップ・センター紀要ならびに地域連携センター主催研究会等を通じて、学内外に報告・還元することができ、学生のゼミ研究や卒論研究に役立ちました。

地域志向研究

上信電鉄上信線沿線地域の観光まちづくりの推進に向け、本学教員を対象とした地域志向教育研究費制度を導入しました。観光に限らず、マーケティングや会計、経営など教員の専門性を活かした調査・研究を行い、専門的な知見から地域活性化に役立つ理論や実践プログラムを導きだすことが目的です。

No	所属	研究代表者	研究・活動テーマ
1	大学	前田 拓生	下仁田町の活性化に資する新作パンの創造及びビジネスアイデアを創造させる教育プログラムの開発のための研究
2	大学	熊倉 浩靖	NIRA型BMを活用した行政経営改革推進(2020年度からの継続研究)
3	大学	松元 一明	最適な社会連携プログラムの構築に関する研究
4	大学	萩原 豪	農業を基盤とした地域循環共生圏(ローカルSDGs)と域学連携に関わるフィージビリティ・スタディー

教育改革研究

2015（平成27）年からは、地域志向教育研究費とは別に、教育活動助成費を設置しています。この教育活動助成費は、COC事業対象地域を中心としたフィールドでの教育活動、地域に対する知の発信や交流活動、学生をはじめとする地域の人材育成を目的とした事業への支援が目的です。この活動費の新設により、地域をフィールドに調査研究・教育活動に取り組む教員数を増加させるに至っています。

No	所属	研究代表者	研究・活動テーマ
1	大学	前田 拓生	地域通貨も用いたコミュニティ経済活性化に向けた調査研究をベースとしたPBLプログラムの開発についての研究
2	大学	佐々木 正仁	財務指標に基づく企業分析のための人工知能教育用教材開発 その2 —TUCコイタ君の開発 PART2—
3	短大	森川 幸紀雄	2021年度 模擬ブライダル 世界遺産富岡製糸場 国宝西置繭所にて —VR及びARを活用したポスト・コロナ時代のNEW BRIDAL STYLE提唱—

富岡製糸場周辺における観光客満足度調査

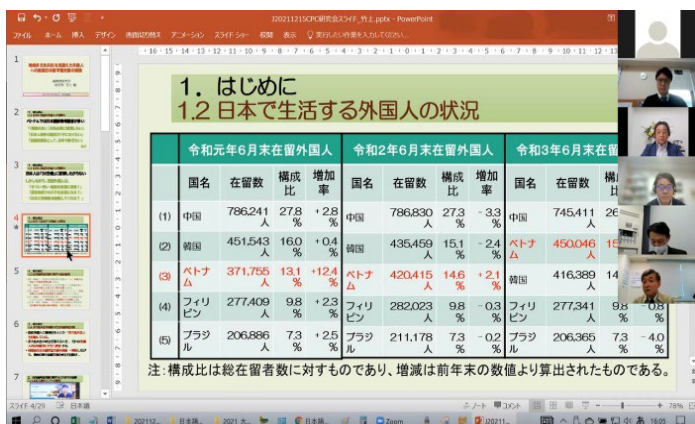


観光客の方への調査の様子



調査員の学生メンバーによるミーティング（富岡サテライト）

地域連携センター研究会



第1回 Zoomによる発表の様子



第2回 Zoomによる参加者

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年11月6日、7日

場所：富岡製糸場内ならびに周辺4か所

参加学生：大学生延べ60名

連携先：富岡市、富岡製糸場

【目的】

富岡製糸場内および周辺における観光客満足度調査（以下、本調査）は、富岡市を訪れる観光客の意識と行動を明らかにし、富岡の観光まちづくりに貢献するため、平成26年度より継続して実施しています。調査には、観光まちづくりゼミ（松元ゼミ）に所属する学生のほか、日本語リテラシーのプログラムの一部として、経営学科1・2年生（弘中ゼミ、中鉢ゼミ）が調査員として参加しました。学生は、調査分析講習へも参加し、調査への理解を深めています。

【活動内容】

調査では富岡市内に加え、今回では製糸場内において、調査員が観光を終えたと思われる観光客に声をかけ、調査票を配布し、回収しました。2日間で、延べ60名の学生が調査員として参加し、412のサンプルを得ました。調査票の分量は一組A4用紙4枚で構成しており、観光客自身が記入する自記式です。調査データの集計やデータ入力も参加学生がおこないます。

【成果・課題】

専門ゼミ生のほか、日本語リテラシー受講生の1・2年生も参加し、調査の実践的な学びを得たほか、学年が異なる学生同士でチームを組んだことで、協働や交流をもたらしことになり、学修意欲の向上につながっています。また調査結果と分析の報告書は、富岡の観光まちづくりに寄与していると考えます。今回より製糸場内での調査を開始したため、これまでとの比較と調査継続が課題となりました。

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年12月15日（第1回）、2022年1月19日（第2回）

場所：第1回 421教室ならびにZoomによる遠隔、第2回 Zoom

参加：第1回 教職員28名 第2回 教職員33名

【目的】

本学教員による地域関連研究の内容検討、成果・進捗状況の報告、情報交換の場として、地域連携センター主催の研究会を開催しています。研究会の実施により、本学教職員の地域研究に関する知識・情報の共有と、互いの研究内容の充実を図りつつ、本学地域連携事業に資する研究計画の立案とその推進体制の構築を目指します。

【活動内容】

（第1回研究会）

- ①「地域多文化共生を見据えた外国人への遠隔日本語学習支援の実践」（竹上 健 教授）
- ②「下仁田町の活性化に資する創作パンとベルソナ分析」（前田 拓生 教授）
- ③「2021年度 富岡製糸場 国宝西置繭所 模擬ブライダル～非接触型レセプション、AR（拡張現実）使用とエコ・ウエディング提唱～」(森川 幸紀雄 准教授)

（第2回研究会）

- ①「小学校区等を単位とする協働の地域づくり」（熊倉 浩靖 特任教授）
- ②「農業を基盤とした地域循環共生圏（ローカルSDGs）と域学連携に関わるフィージビリティ・スタディー」（萩原 豪 准教授）
- ③「地域通貨を用いたコミュニティ経済活性化に向けた調査研究をベースとしたPBLプログラムの開発についての研究」（前田 拓生 教授）
- ④「最適な社会連携プログラムの構築に関する研究」（松元 一明 准教授）



「持続可能な開発目標」2030年までに達成すべき17の目標（SDGs）について学ぶ 公開講座

第1回 7月10日(土) SDGsとESG投資が目指す持続可能な世界
 第2回 7月17日(土) パートナリシップでSDGsを達成しよう！
 第3回 7月24日(土) ニューノーマル社会における付加価値
 第4回 7月31日(土) SDGsのバックカスティングを活用する
 第1～4回 時間 13:30～15:00

定員 各回30名 **受講料** 500円×4回
受付開始 5月6日から **場所** 433教室
 ※公開講座参加申し込み方法、その他の公開講座については要項をご確認ください。

講師紹介
 高崎商科大学地域連携センター 教授・センター長 **前田 拓生**
 ■1988年生まれ、大阪府出身、和歌山大学卒業後、総合証券会社・エコノミスト（海外市場調査成績）等を経て、現職
 ■高崎商科大学商学部会計学科/大学院教授
 ■2018SDGsゲーム公認ファシリテーター
 ■専門領域：ファイナンス論、資産運用（ESG投資）、意思決定論、地域政策デザイン（SDGs等）

高崎商科大学地域連携センター **高崎市後援**



ブレインストーミングセミナー
 変化の時代の人材育成 **プレストカードを使って研修!!**

高崎商科大学は、鎌倉にあるIT企業面白法人カヤックと協働し、「ブレインストーミング略して、プレスト」を応用した人材教育に取り組んでいます。プレストとは、複数人でアイデアを出し合う会議手法のこと。カヤック流のプレストでは、常識にとらわれない発想のトレーニングやチームワークの向上を図ることができます。本取り組みを始めて以来、多くのお問い合わせをいただき、高等学校の教職員研修や生徒向けの探究学習にもこれらを活用して社会とつながる人材育成のお手伝いをしてきました。いまだに得られなかったノウハウや経験を活かして、より多くの企業や学校で人材育成のお手伝いできたならと考えています。ご興味のある企業の人事教育担当のみならず、社会人みなさま是非、本講座にご参加ください。

日程 10月22日(金) 18:00～19:30 受付開始：10月4日
対象 社会人等 人事・教育担当者におススメ
定員 先着20名 最小開催人数12名
受講料 1,000円
場所 高崎商科大学 (高崎市根小屋町741) 4号館2階 421教室
講師 3.5本の矢プロジェクト プロデューサー 鈴木洋文 デイリクター 羽鳥広平

当日の受付にてお支払いいただきます
公開講座のお申込み方法については、裏面をご参照ください

高崎商科大学地域連携センター **高崎市後援**

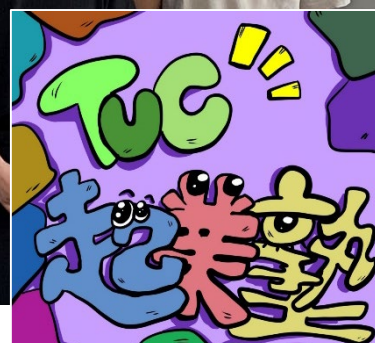
講座名	分野	日程	講師（敬省略）	受講者	講座名	分野	日程	講師（敬省略）	受講者
世界が認めた群馬の資産	歴史	第1回 5.15	熊倉浩靖	16名	ブレインストーミングセミナー	ビジネス	第1回 10.22	鈴木洋文・羽鳥広平	8名
		第2回 6.26		21名			第1回 5.22		5名
		第3回 7.3		20名			第2回 6.26		6名
		第4回 7.17		20名			第3回 7.24		7名
ここまでわかった旧石器・縄文時代	歴史	第1回 11.13	大工原豊	36名	親子で飛び出す絵本	趣味	第1回 7.31	高橋美樹子	6名
		第2回 11.27		41名			第1回 10.30		1名
		第3回 12.4		34名			第1回 11.6		3名
文化に浸かる群馬の温泉	文化	第1回 11.13	熊倉浩靖	38名	紙芝居を使ったプログラミング思考育成教育	IT	第1回 11.20	Patrick Rates	6名
		第2回 11.27		31名			第1回 6.5		6名
		第3回 12.4		25名			第2回 6.19		4名
「持続可能な開発目標」2030年までに達成すべき17の目標（SDGs）について学ぶ講座	ビジネス	第1回 7.10	前田拓生	11名	韓国語入門	語学	第3回 7.10	金弘錫	3名
		第2回 7.17		9名			第1回 8.28		中止
		第3回 7.24		10名			第1回 10.30		8名
		第4回 7.31		9名			第1回 11.6		5名
「イゴノミクスの世界」への誘い	ビジネス	第1回 8.20	洲上勇次郎	中止	講座数：15講座（2講座中止）	講座回数：27回	講座参加数：389名		
		第2回 8.27		中止					

【公開講座 講座参加者】

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大によりオンライン公開講座のみの実施となりましたが、令和3年度になり感染拡大状況が落ち着き、群馬県の警戒レベルが2まで下がったことにより対面による公開講座を再開しました。運営については、受講者の検温、教室の換気、消毒等、教室の座席も隣席が空くよう講座定員数50名から40名まで減少させ、感染防止対策を徹底。「イゴノミクスの世界への誘い」、「LGBT（SOGI）への理解促進」の2講座は新型コロナウイルスに対する群馬県のまん延防止等重点措置期間となったため中止としましたが、その他の13講座（講座回数27回）については、全て対面にて開催することができました。講座受講者数の合計は延べ389名となり、地域の多くの方からの参加がありました。



TUC 起業塾



SDGsジェンダー平等経営ゲーム



改訂増版されたSDGsスーパーシティゲーム

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：通年事業 場所：大学構内

参加学生：3年生2名、2年生1名、1年生3名（公募）

連携先：前田拓生研究室

【目的】

現在は、様々な「ニューノーマル」がキーワードになっており、これまでのやり方では対応できなくなっています。「働き方」も同様であり、たとえ会社に勤めるとしても、起業精神（アントレプレナーシップ）が必要になります。TUC起業塾（本塾）では、このアントレプレナーシップを座学及びフィールドワークを通して学ぶとともに、「ビジネスアイデア・ビジネスモデル」を策定できる人材へと育成することを目的に設立しました。

【活動内容】

前期はビジネスモデル策定等を座学で学んだのですが、後期は実際にビジネスの体験をしたいということになりました。

そこで、早稲田大学高口洋人研究室と一緒に、高崎商科大学前田拓生研究室と株式会社インスプレースが共同して開発した「SDGsスーパーシティゲーム」を改訂するとともに、増版し、販売することにしました。加えて、「SDGsジェンダー平等経営ゲーム」の試作品開発も同時に行いました。ともに学生間でゲームを何度も試行しながら問題点を洗い出して、ルールブック等の改訂（ジェンダー平等経営ゲームは新規作成）を行いました。また、資金調達としてクラウドファンディングを利用し、実際に100個（ジェンダー平等経営ゲームは30個）作成し、販売することができました。

【成果・課題】

【成果】資金調達も行うとともに、Twitter等を利用した広報等も学生間で話し合い、スーパーシティゲーム改訂増版及びジェンダー平等経営ゲーム試作品開発ができ、客先に届けることができました。

【課題】まだ改訂すべき点もあり、引き続き検討するとともに、さらなる活動につなげていきたいと考えています。



ビジネスアイデアコンテスト



プレゼンテーションの様子



プレゼンテーションに対する質疑応答の様子



受賞作品に対する表彰の様子

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年12月5日 場所：大学構内
参加学生：本学大学生6組、群馬大学1組、新島学園短期大学1組、
育英短期大学1組、前橋商業高校1組
連携先：しのめ信用金庫、Creator's Guild高崎カロー

【目的】

高崎商科大学ビジネスアイデアコンテストは、地域を担う次世代のビジネスリーダーを育成し、地域を元気にすることを目的に開催しており、今回で20回目の開催となります。群馬県の活性化を念頭に置いたビジネスアイデアを、本学大学生・短大生だけではなく他大学・高校等からも広く募集しています。

【活動内容】

大学生・短大生・高校生から合計で39組の応募があり、一次審査の書類審査を通過したのは10組。しのめ信用金庫、Creator's Guild高崎カロー、富士通japan株式会社群馬支社、テグレット技術開発株式会社には審査員として参加、ご講評を頂戴しました。各賞は次の通りです。

【学長賞】群馬大学 室井颯人さんチーム
企画名：乗り捨てカーシェアリング CARPERATION

【奨励賞】高崎商科大学 小野彰大さんチーム
企画名：ノンアレルギーCafé

【優秀賞】高崎商科大学 金井瑞稀さんチーム
企画名：食事及びカーシェアリング高付加価値サービスと
マンション経営

【しのめ信用金庫理事長賞】高崎商科大学 黒岩愛香里さんチーム
企画名：群馬県重点8品目の野菜を活用した商品開発と
ブランド力向上

【カロー賞】新島学園短期大学 濱野凜さんチーム
企画名：空き家を使った個室保護猫カフェ

【テグレット技術開発賞】高崎商科大学 鈴木有海さんチーム
企画名：「だるまのまち」

【富士通japan(株)群馬支社長賞】高崎商科大学 平岡央さんチーム
企画名：くせもの野菜のぐんすむ

【成果・課題】

【成果】コロナ禍により、遠隔による開催も検討しましたが、発表学生にはフェイスシールド、座席の間隔を空ける、参加者は関係者のみ、マイクカバーの着用等、感染防止対策を徹底し、対面にて開催ができました。時代に合った斬新なアイデアの発表であり、若い学生の力を感じるコンテストとなりました。学長賞を受賞したチームは、FMぐんま「ユニラジ」の出演もあり、本イベントを広く周知することもできました。



学内SDGs推進 さくらプロジェクト



学生がキャップを回収し、計量する様子



アンカンミンカン富所氏とラジオ収録を行う学生

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年7月8日～12月2日 場所：大学構内
参加学生：短大生7名、大学生3名 連携先：高崎塚沢小学校
国際ソロプチミスト高崎

【目的】

東日本大震災から10年が経ち、東北の復興への想いを忘れないため、福島県で育てた新種の桜の苗木を全国に広める「さくらプロジェクト」。地域連携センターは、本プロジェクトに参画し、学内のペットボトルキャップを回収し、集められたキャップを塚沢小学校PTAにお渡しし、福島県で育てた桜の苗木の維持管理、高崎市へ車いすの寄付等を行っています。また、ペットボトルの回収の他、大学のウォーターサーバーの利用を促進する活動も同時に行い、学内SDGs推進活動も行っています。

【活動内容】

学内におけるペットボトルキャップの回収ボックスは18か所あり、今年度回収したキャップの重さは105kgとなりました。連携する国際ソロプチミスト高崎より30kgのキャップをお預かりしましたので、合計で135kgのキャップを塚沢小学校にお渡ししました。

本プロジェクトは被災地支援とキャップのリサイクルからSDGs推進の2つの側面があります。本学は今年度ウォーターサーバーを学内に設置しました。プロジェクトに参加した学生は、ウォーターサーバーの利用を促進するポスターを作成し、利用者が増加することで、ペットボトルのプラスチックゴミを減少させる活動も行いました。

【成果・課題】

【成果】本プロジェクトにおける活動が群馬県のSDGsに対する取り組みを紹介する「群馬SDGsレポート」というFM群馬のラジオ番組で紹介されました。ラジオパーソナリティーは群馬住みます芸人アンカンミンカンの富所氏となり、本学におけるSDGs推進活動を広く周知させていただきました。ラジオ収録に参加した学生にとっても貴重な学びの機会となりました。

【課題】キャップリサイクルの活動を報告する塚沢小学校の「ふれあい祭り」がコロナの影響で中止となってしまう、学生が集めたキャップがどのようなカタチになるのかを伝えることができなかったこと。



地域連携センター学生スタッフ



高崎健康福祉大学合同クリスマスイベント企画



スタッフ研修in下仁田

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：通年事業 場所：大学構内
参加者：大学生4名、短大生5名 連携先：高崎健康福祉大学

【目的】

ボランティアや地域におけるプロジェクトの推進を目的に、今年度より地連専属学生スタッフ組織をつくり、活動を開始しました。活動内容は主に4つあります。①SNSを使ったボランティア・プロジェクトの情報発信②他大学のボランティア学生スタッフとの交流・合同研修③地域連携センター紹介動画、ポスターの作成④地連事業の企画・運営・協力。①から④の活動を通じて、自主性・協働性・創造的思考力を養うことを目的としています。

【活動内容】

学生スタッフの主な活動内容は下記の通りです。
①学生スタッフInstagramの開設 ②地連Tシャツ作成
(地連犬というキャラクターを考案しイメージキャラクターとした)
③スタッフ研修の実施
(包括連携協定先である甘楽町、下仁田町の観光地・観光施設の視察ならびにフィールドワークを行う)
④他大学の交流
高崎健康福祉大学のボランティア学生スタッフとつながり、下記の通り合同ボランティア企画を実施しました。
・12月27日(月) 本庄の学童にてZoomによるクリスマスイベント
・12月28日(火) 伊勢崎の学童にて対面のクリスマスイベント
⑤地域創造フォーラムにおける学生発表

【成果・課題】

【成果】学生スタッフがボランティアや地域連携プロジェクトを推進することにより、ボランティア・プロジェクトの参加率向上ならびに地域連携センター来室数アップに貢献しています。
【課題】学生スタッフは大学生と短大生がいます。カリキュラムの違いから、授業の空き時間を合わせる事が難しく、ミーティング設定の調整が難しいことです。

学習支援ボランティア・部活動支援



ボランティア学生と南八幡中学校の生徒の皆さん



部活動支援学生と南八幡中学校の生徒の皆さん
※南八幡中学校HPより

高崎市内私立大学・短期大学 連携事例発表会



上武大学の会場にて本学学生が事例発表



事例発表学生による集合写真

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年6月～2022年3月 連携先：高崎市教育委員会
場所：＜放課後学習支援ボランティア＞
高崎市立南八幡小学校・高崎市立南八幡中学校・高崎市立城山小学校
＜部活動支援＞
高崎市立南八幡中学校・高崎市立寺尾中学校・
高崎市立吉井中央中学校・高崎市立第一中学校
参加学生：＜放課後学習支援ボランティア＞延べ 34名
＜部活動支援＞ 8名

【目的】

高崎市が取り組んでいる「学力アップ大作戦」の一環で行う放課後学習支援ボランティア事業は、放課後と夏休み期間を中心に児童・生徒の自主的な学習をサポートし、学力向上に向けた環境づくりを推進することを目的としています。

また、部活動指導員・アシスタントは、高崎市内の中学校で部活動の支援を行います。

本学は、これらを貴重な機会と捉え、全学生に対し周知し多くの学生の学びの機会になるよう努めています。

【活動内容】

学習支援ボランティア・部活動支援に関わる学生は、学内での説明会に出席し参加の有無を決めます。その後学内の面談と事前ワークを行い、希望する学校に出向き児童生徒の学習サポート・部活動支援を行います。

【成果・課題】

【成果】子供たちに寄り添うことで得られるものは多く、貴重な機会と捉えています。新型コロナウイルス感染拡大防止の関係から、設定された支援日と個々のスケジュールが合わないケースが多く、調整は大変でしたが、他者との接触の機会としてはとても有効なものでした。

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2022年2月22日 場所：上武大学高崎キャンパス
参加者：大学生6名、短大生8名 連携先：高崎市内私立大学/短期大学

【目的】

高崎市では、地域が抱える身近な課題に、大学と企業等が共同で取り組む産学連携を促進させると共に、大学が持つ知的資源、特に地域課題を解決するノウハウを広く紹介するため、群馬パース大学、高崎健康福祉大学、育英大学・育英短期大学、高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部による合同事例発表会を開催しました。

本発表会は、学生が地域貢献活動や新たなビジネスアイデアの展開を研究し、発表することにより、地域経済の活性化や地域産業の振興に貢献することを目的としています。

【活動内容】

本発表会は、地域課題の発見と解決や、地域の魅力アップに取り組む大学生たちが、毎年、合同でその成果を発表しています。本学では今回、甘楽町との産学連携事業である「甘楽の天然水商品化プロジェクト～かんらの天水ができるまで」と、群馬バスとの企業連携プロジェクト「観光のカタチをデザインする」の2チームが参加し、それぞれの活動内容や成果についてプレゼンテーションを行いました。

【成果・課題】

【成果】学生にとってこれまで取り組んできた地域・企業連携事業を大勢の前で発表することは、大変貴重な機会であると考えます。また他大学のプレゼンテーションを聞くことでこれからの連携活動の参考になったと思います。

【課題】今回、2チームの事例を発表しましたが、学内選考は設けられていません。今後は、学生選考会を設けることを検討し、発表チームのレベルを高めていきたいです。



工女おもてなしプロジェクト



富岡製糸場視察の様子



FMぐんま POTLUCK ユニラジコーナー
工女プロジェクト紹介 ラジオ出演の様子

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年4月～2022年3月 場所：富岡市他
参加学生：大学生・短大生 17名 連携先：富岡市観光協会、富岡市

【目的】

富岡製糸場の世界遺産登録時から本学学生が行っている「工女おもてなしプロジェクト」は、富岡市・富岡製糸場、その周辺地域について学んだ学生が、女子学生は明治期の工女をイメージさせる袴姿で、男子学生は着物姿で、地域活性化のための情報発信や活動を行うことで、学生の学びと地域活性化を目的としています。

【活動内容】

プロジェクト参加者が新規で加わる年度初めには、富岡製糸場総合研究センター所長講話より、富岡製糸場の歴史的・文化的価値を学び、富岡製糸場現地視察から、本学地域連携事業「工女おもてなしプロジェクト」及び、今後の上信電鉄沿線地域での活動の際の基礎知識の教養を身に付けました。

その後、学生主体となり、「コロナ渦の中での活動」について考え、SNSでの情報発信を積極的に行いました。また、上信電鉄株式会社と連携しアンケート調査や、富岡製糸場内ARコンテンツ制作企画など、多岐にわたり活動を行いました。

【成果・課題】

【成果】学生ならではの若い視点での情報発信を行うことで、広く多くの人に富岡市・富岡製糸場の魅力を伝えることが出来ました。

また、学生が主体となって活動することにより、「主体性・協働性・情報収集力・表現力・課題発見力・課題解決力」などを養うことが出来ました。

【課題】学外での活動に制限があるうえ、蜜を避けるために学内での集まりも少なく、学生からの意見としては、もっと学生同士が顔を合わせて話し合える時間や、活動時間が欲しいと要望があり、次年度の課題でもあります。



模擬ブライダル(富岡製糸場 西置繭所)



会場の様子 式の全てを学生が作り上げている



高崎商科大学短期大学部

国宝で環境に配慮した模擬ブライダル

群馬テレビにて「模擬ブライダル」が紹介された

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年10月14日

場所：富岡製糸場西置繭所

参加学生：短大生33名

連携先：富岡市、マリエール高崎

【目的】

短期大学部現代ビジネス学科ホテル・ブライダルコース1年生の実習として例年行われる「模擬ブライダル」。学生たちは、地域の資源や特徴を踏まえたブライダルを検討し、「地域ならではの」新たなブライダルづくりを目指します。

2021年度は、富岡製糸場西置繭所を舞台に出会いの場、富岡のバラの様に美しく献身的な愛を誓う～夢と希望を与えるセレモニー～をテーマとして開催しました。

【活動内容】

今年度は、AR（拡張現実）コンテンツを制作できるアプリ「COCOAR（ココアル）」を取り入れ、紙類の削減を目的に紙媒体（式次第や新郎新婦プロフィールなど）をスマートフォン上で電子化させるなど、環境に配慮したエコ・ブライダルを実施しました。

また、コロナ禍での感染懸念や遠方で参加することができない方の参加を想定し、YouTube ライブ配信も行いました。

【成果・課題】

【成果】模擬ブライダルのテーマや演出を検討するにあたり、富岡製糸場やまちなかのフィールドワークを実施。これにより、学生たちが感じた製糸場やまちなかの歴史や魅力を踏まえた演出を試みる事ができました。

また、新聞やテレビ、ラジオなどでも取り上げられ、広く富岡製糸場についても周知することができました。



「県内農家応援プロジェクト」梅の収穫とレシピ考案



梅を収穫する学生



学生は2時間かけて合計200kgを超える量の梅を収穫

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年6月20日
参加学生：短大生8名
大学院生1名

場所：高崎市岡田農園
連携先：高崎ターミナルビル株式会社
岡田農園

【目的】

体験の場としてご提供いただいた梅農家さんは、これまで、道の駅や各種イベント、そして高崎駅に位置する「群馬いろは」にて梅の加工品販売を行ってききましたが、新型コロナウイルス感染拡大とともに、イベントがなくなり大事な販路を失っていました。そこで新たな販路として「ネット販売」を取り入れたことで、この苦境を乗り越え販路拡大に成功しました。これら一連の聞き取りと梅の収穫による支援、そしてレシピの提案により、梅加工品の新たな可能性を考えることを目的としました。

【活動内容】

本学では高崎駅の駅ナカ事業を展開する高崎ターミナルビル株式会社と連携し、2020年度より県内農家応援プロジェクトを実施しています。今回は榛名町の梅農家さんにて、梅の収穫と加工梅の新商品提案を行いました。学生は200kgを超える梅を収穫し、レシピ提案は各自が提案書をもとにワーク形式で行いました。商品化へのヒントとなった物、すでに商品として実在する物等様々でしたが、農家さんとの一問一答は、互いの学びの機会でもありました。また、これらを通じて梅の知識を深めることはもちろん、農業の「6次産業化」について知ることができました。

【成果・課題】

【成果】梅の収穫は参加した学生にとって、初めての経験となり、体験型学修の貴重な機会となりました。また、農家が生産・加工・販売まで行う農業の「6次産業化」について、実際の農家の方よりお話を伺うことができ、大きな学びとなりました。

【課題】今回の「県内農家応援プロジェクト」については、収穫した梅をそのまま販売することができないので、収穫とレシピの考案となり、販売の機会を設けることができなかったことです。

富岡製糸場内ARコンテンツ制作



富岡製糸場課、(株)Provisionとのミーティングの様子



ARコンテンツ利用案内看板製作に伴う撮影の様子

城町商店街
顔はめパネル・フォトスポット

城町商店街に設置されたパネル



決定した図案（パネル3点、パネル以外1点）

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年11月より 場所：本校内、富岡製糸場

参加学生：工女プロジェクト参加学生

連携先：富岡製糸場課、株式会社ProVision

【目的】

富岡製糸場内設置のARコンテンツ企画において、新規ARフォトフレーム制作に、学生の若い目線を取り入れたコンテンツとするべく、本学工女プロジェクトの参加者が、制作にかかわりました。

【活動内容】

2021年11月に依頼を受け、全学生対象に「フォトスポット」に関するアンケート調査を実施しました。

2021年12月には、本学にてARコンテンツ企画の概要説明および、学生からの意見出しを行い、どのような写真だったら撮りたくなるのか・デザイン案など、学生のアイデアや意見を伝えました。

サンプルARコンテンツが出来上がった後、再度、学生達より意見出しを行い、ARコンテンツ完成に伴い、富岡製糸場内設置のARコンテンツ利用案内看板製作のモデルを本学学生が務めました。コンテンツは、2022年4月15日(金)より、場内で公開されました。

【成果・課題】

【成果】工女プロジェクトとして、富岡製糸場の魅力を発信する活動の一環として、自分たちの考えが反映された「成果物」が出来たことは、学生にとって非常に得たものがありました。地域団体・企業と連携した中や、一からモノを作り上げる事の難しさや、人に伝える難しさに気づき、課題解決に向けた動きは各自の成長を促しました。

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年10月より 場所：富岡製糸場城町商店街

参加学生：大学生1名、短大生3名 附属高校生6名

連携先：富岡製糸場 城町商店会

【目的】

富岡製糸場城町商店会よりの依頼により、城町商店街活性化を目的とした、「顔はめパネル・フォトスポット」パネルの制作にかかわりました。

【活動内容】

2021年10月に依頼をうけ、富岡製糸場城町商店街3か所に設置予定の顔はめパネル・フォトスポットのパネル図案を、本学学生および附属高校生より募集を開始しました。

図案作成に伴い、図案提供者は、富岡製糸場城町商店街の現地視察を行い、図案作成に入りました。

図案の募集締め切りを2022年1月11日とし、大学1件、短期大学部3件、附属高校5件の合計9件の応募がありました。

その後、城町商店会にて選定を行い、3点のパネル図案採用と、1点のパフレット図案等への転用採用が選ばれました。

【成果・課題】

【成果】官公庁との連携だけではなく、地元根差した団体との連携事業の始まりとなり、今後、連携地域での学生の活動に幅をもたすことが出来たと思われます。また、附属高校とも連携し学園全体で地域活性化に向けて活動できたことは非常に大きな意味をもったと思われます。



「道の駅しもにた」活性化委託事業パン考案



販売されたパン



クーポン付きアンケート調査の様子

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年11月20日、11月27日 場所：道の駅しもにた

参加学生：前田ゼミ3年生・1年生 連携先：下仁田町

【目的】

下仁田町及び高崎商科大学は、2015年に包括連携協力に向けた協定を締結しており、本活動は当該協定に基づくものです。

本活動は2020年度から「下仁田パンフェス」として2年連続で実施しました。本活動では、下仁田町（本地域）の観光事業の活性化に向けて、本地域に存在する地域資源を活用した創作パンの開発を行うとともに、創作したパンを本道の駅で実践販売し、クーポン付きアンケート調査も実施することで、本地域を訪れる観光客の動向等も検証することを目的としています。本年度は昨年度の調査結果との比較検証も行いました。

【活動内容】

本調査研究も昨年度同様に、株式会社インスプレース（福田徹社長）が既に開発運用していた「パン屋さんゲーム」をベースに必要な改編を施した教育プログラムを利用して、本地域の素材等を活かしたパンを学生に創造させました。ターゲットとして定めた観光客が当該創作パンを購入したか検証するために、本道の駅での実践販売と100円クーポン付きのアンケート調査を実施しました。

【成果・課題】

【成果】カイ二乗検定及び独立性の分析により、学生が創造した新作パンは、いくつかの新作パンにおいて学生グループが想定したペルソナに（細かい部分は合致していないものの）一定程度好まれたことが検定の結果明らかになりました。

調査研究の成果ではないものの、当該イベントを目的に道の駅を訪れた顧客が2割いた点より、当該イベントが地域活性化につながるものであることがわかった点は成果と想定される。

【課題】一定程度、想定したペルソナに好まれたが、そうでないグループは多かった。今後はこの点を踏まえて、教育プログラムを修正していく予定です。



甘楽町AQUAデザインプロジェクト



各デザインチームによるプレゼンテーション



「かんのらの天水」販売会で販売する学生の様子

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年3月～11月 場所：甘楽町ら・ら・かんの、道の駅甘楽等
参加学生：公募学生9名（大学生3名、短大生6名）、松元・美藤ゼミ
連携先：甘楽町

【目的】

甘楽町では、歴史的価値のある雄川の原水を使用したミネラルウォーターを商品化することで、地震や台風などの自然災害に備え、災害備蓄品として活用することと、商品化されたミネラルウォーターを用いて町のPRを行い、地域活性化に利用することを計画しました。商品化するにあたり、ミネラルウォーターのコンセプトづくりとネーミング、パッケージデザインについて、本学の知見や学生の視点を加えることで、商品に付加価値をつけることを目指したプロジェクトです。

【活動内容】

2021年3月に甘楽町よりプロジェクトの概要説明があり、本学が担う役割を確認しました。4月にプロジェクトの中心となる「デザイン」を担当する学生が公募され、甘楽町の魅力を調査する松元ゼミ、マーケティング調査を担当する美藤ゼミの学生も加わった本学のプロジェクトチームが結成されました。デザイナーによる講習を含む、ワークショップが繰り返され、7月から10月にかけて開催された「甘楽町プロジェクト委員会」による選定を経て、「かんのらの天水」が完成しました。11月6日に「かんのらの天水完成発表会」が開かれ、11月13日には、道の駅甘楽、小幡公園において、かんのらの天水販売記念特売を実施しました。

【成果・課題】

【成果】本事業は「産官学民」によるプロジェクトとなり、それぞれの強みを生かし、「かんのらの天水」を完成させることができました。町が求めた天然水のコンセプトづくりとデザインに、本学のもつ専門性と学生の視点、感性を生かして応えることができました。加えて、学生が企画から商品化、販売までトータルにかかわることによる実学や、多様な主体との連携/協働する経験から、高い学修効果が得られたプロジェクトになりました。



甘楽町美味しいもののマップデジタル化事業



「食べる・買う」「観光スポット」「散策コース」「年間イベント情報」をペーパーレスで提供。



サイクリングコース取材中の学生の様子

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年9月～2022年3月 場所：甘楽町飲食店・小売店等
参加学生：松元ゼミ3年生12名、短大生2名
連携先：甘楽町産業課商工観光係

【目的】

「甘楽町美味しいもののマップデジタル化事業は、2020年度に作成した紙媒体の「美味しいものマップ」について、再度飲食店の取材をおこないコンテンツをアップデートしたうえで、ウェブサイトで公開することを目的としたプロジェクトです。マップの掲載情報をネット上で公開することで甘楽町の見込み客に向けて、甘楽町の飲食店、グルメの情報のほか、観光情報を提供し、甘楽に足を運んでもらうことを目指します。加えて、訪問客にペーパーレスで情報提供をおこなうことや、コンテンツの更新を容易にすることも可能となりました。

【活動内容】

プロジェクトはまず、2021年6月～9月にかけて甘楽の飲食店、観光資源に関するプレ調査を実施し、10月にはプロジェクトのコンセプトを決め、甘楽町への提案をおこないました。10月～11月にかけてページの構成と掲載コンテンツを決定し、11月～12月には、飲食店や店の取材をおこない、マップに掲載するコンテンツを収集しました。また並行して、甘楽町の観光スポットを巡る「サイクリングコース」の企画と現地調査もおこないました。2022年1月～3月に、取材した記事や写真をもとに、デザイン会社との打ち合わせを重ね、ウェブページを完成させました。

【成果・課題】

【成果】現在、甘楽町公式ホームページのトップページにバナーがかけられ、完成させた美味しいもののマップウェブサイトへのリンクを張り活用されています。マップのデジタル化は、本学から町への提案であり、「ニーズ対応から提案」へとプロジェクトを展開することで、地域連携事業の質の向上を図ることができました。また本プロジェクトは、町や取材先、コンテンツデザインをおこなう業者とのコミュニケーションや調整が不可欠であり、これらを通じたPBLにより高い学修効果が得られたことが、ヒアリングやPROGテストから確認できました。



藤岡市「桜山公園」整備に伴う委託事業



みかん狩りをしている様子



みかん狩り無料チケット付きアンケート調査の様子

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年11月13日、11月14日 場所：ららん藤岡、藤岡市鬼石町
参加学生：前田ゼミ3年生&1年生、公募短大生
連携先：藤岡市

【目的】

本調査研究は、藤岡市と高崎商科大学との業務委託契約に基づくもので、調査研究においては本学前田拓生研究室が中心となって実施しました。本調査研究の目的は、桜山公園に四季を通じて誘客を促進し、藤岡市のシンボルとしての人にやさしい公園、満足していただける公園とするため、SDGsの観点から調査研究を行うものです。

【活動内容】

2021年度前半期はCOVID-19の感染拡大に伴う緊急事態の期間が長く、学生を伴ったフィールドワークが思うように行うことができませんでした。そのような中、市役所等へのヒヤリングで、桜山公園に冬桜を見に来る人々を対象として「みかん狩り」を行っているとの情報を得たことから、桜山公園の冬桜から「みかん狩り」をどの程度認知されているのかを知るために、みかん狩りを実際に行うとともに、収穫したみかん及びみかん狩り無料チケットを付けたアンケート調査を実施することにしました。また、「みかん」を使ったレシピを学生に創造させるワークも同時に行うことになりました。

【成果・課題】

【成果】本調査によって、冬桜が桜山公園で鑑賞できることを藤岡市以外の居住者はあまり認知していない、公園近くの八塩温泉の認知度が低い。みかん狩りについても藤岡市以外の居住者の認識は低水準という点が明らかになりました。以上からそもそも冬桜を知らない層へのアプローチやみかんの北限に違い地域であることを利用したプロモーションを行う必要があるものと推察されます。

【課題】本調査によって、上記のような提言はできるものの、さらなるファクトであり、桜山公園の活性化ということであれば、総合的なコンセプトが必要と考えられます。引き続き、調査研究を継続したいと思っています。

「ふじおか未来探究」学習支援



多目的室での学習の様子



前田センター長による講評

産学連携インターンシップ



インターンシップ中の学生の様子



インターンシップ中の学生の様子



【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年11月11日（報告会） 場所：群馬県立藤岡中央高校
参加：教員2名（報告会） 連携先：群馬県立藤岡中央高校

【目的】

「ふじおか未来探究～地域でつながる～」は、藤岡中央高校の生徒が地域の課題を発見し、その解決に向けた企画立案をおこなう「総合的な学習」におけるプログラムです。生徒は地域の課題を発見するため、地域の方々へのインタビューやフィールドワークを実施し、審査員の前で策定した企画案をチーム全員でプレゼンテーションします。本学では、藤岡市の関係者とともに探究学習の支援をおこなうとともに、外部審査員として報告会に参加しました。

【活動内容】

本学からは築副学長、前田センター長（報告会）、松元准教授（事前ワーク）の3名の教員がプログラムの支援をおこないました。5月には、松元准教授が地域の方々へのインタビューの方法についての講義をおこないました。8月には生徒より提出された企画素案（全49班）に対し、本学教員5名が評価、コメントをフィードバックしました。11月11日に実施された「ふじおか未来探究発表会」では築副学長、前田センター長の2名が外部審査員として参加しました。

【成果・課題】

【成果】この連携事業は、本学教員の知見を、地域の高校へフィードバックする高大連携の良い機会となっています。昨年度はコロナ禍のため、インタビューや講義などを遠隔に変更し実施をしましたが、今年度は「インタビューワーク（事前ワーク）」と「報告会」のいずれも対面により実施することができ、プログラムの効果を発揮することができました。

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年6月の土日中心、2021年8月 場所：道の駅甘楽
参加学生：大学生6名、短大生2名
連携先：一般社団法人 甘楽町都市農村交流協会

【目的】

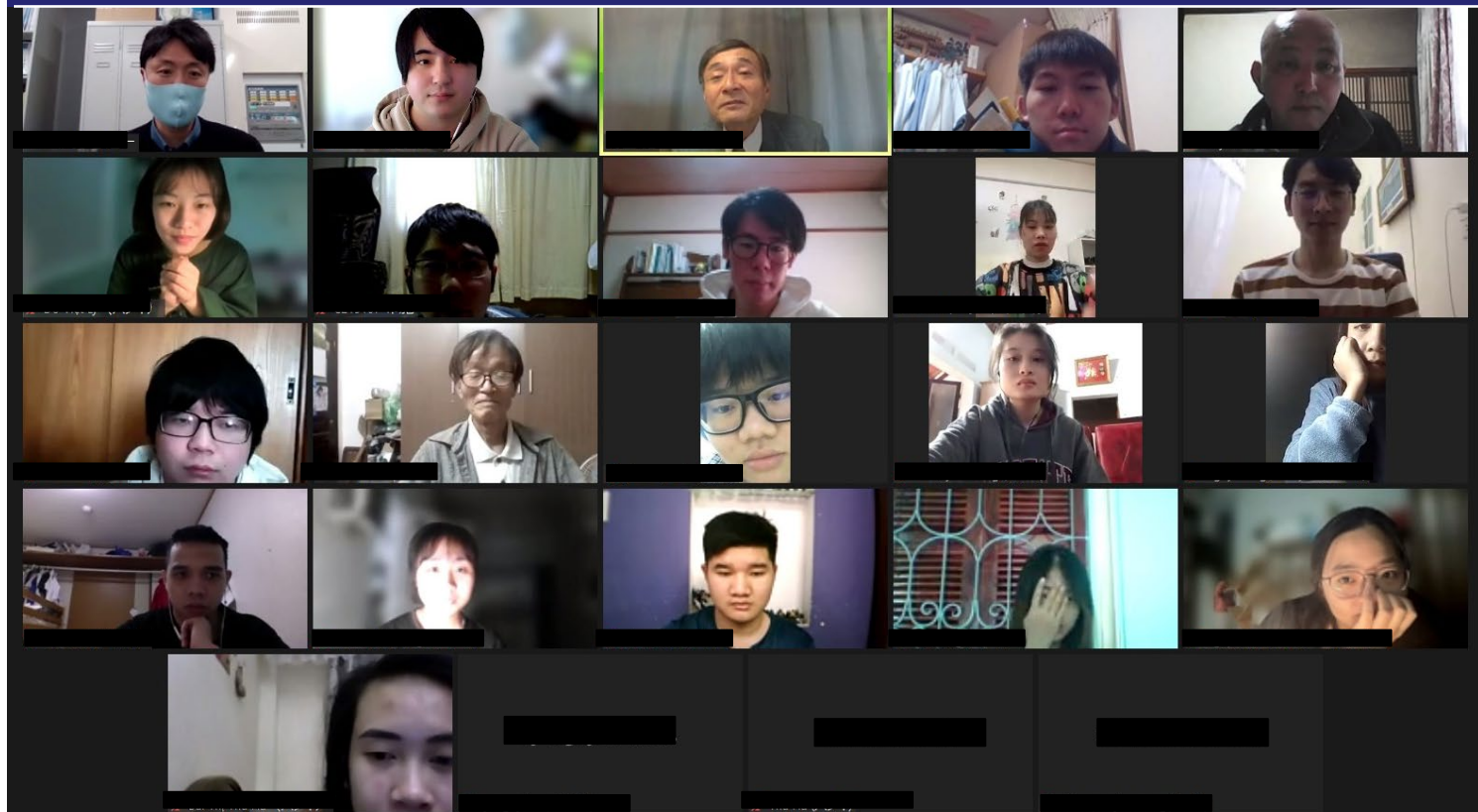
就業・職場体験の機会に触れることによって、就職への不安を解消し、働き甲斐のある仕事を発掘します。また、実践的な業務を体験しつつ、学生自らが特定の目標やテーマを設定し、それを達成するための調査・研究・分析を行い、課題等の解決に向けた提案を行うなど、様々な経験と知識を得ることで自己肯定感をアップさせることを目的としています。

【活動内容】

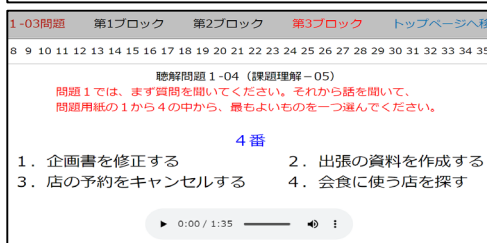
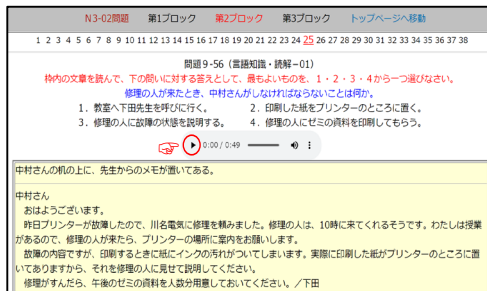
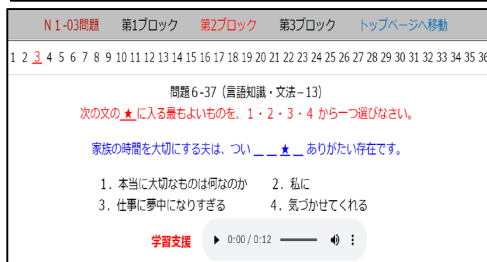
道の駅甘楽にて、実践を通した学びを行いました。一人10日間程度、1日7時間（休憩含む）の実習を行います。受け入れ先の甘楽町都市農村交流協会の方々のご指導・ご協力により、参加した学生からは、自発的な企画提案があったりと、非常に充実したインターンシップとなりました。実習期間中、緊急事態宣言等により実習を中断しなければならない状況ではありましたが、日程を変更し各自最後までやり遂げることができました。

【成果・課題】

【成果】実学重視の教育理念のもと実施している本学の課外学習の一つである「産学連携インターンシップ」は、連携先の一般社団法人甘楽町都市農村交流協会のご理解により、より実践的かつ学修の意味をもった内容となっており、学生自身の進路選択だけでなく、自身の成長の場としても有効な機会となりました。



外国人の日本語能力修得支援の推進 Zoomによる日本語能力試験N3学習会



◎ネットワーク上に学習教材を準備しているので、学習者はスマートフォン・タブレット・PCなどで、好きな時間に学習可能。

◎文字の抜かれた箇所に、示された4つの語を並べ替えてあてはめ、適切な文章にする問題。難解の場合は**学習支援**で音声による解答提示。

◎問題の日本語を読んで設問に答える問題。日本語の中に読めない文字がある場合など、○の箇所をクリックすることで、問題文の読み上げを実施。

◎音声による問題を聞いて解答する聴解問題。問題は任意で再生可能なため、聞き取れない場合は何回でも聞き直し可能。

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日時：初回 2022年1月29日 10時30分～12時（日本時間）
以降 2月11日、26日、3月6日、20日
参加者：甘楽町在住外国人、ハノイ・フォンドン大学生、
竹上ゼミ学生
後援：甘楽町国際交流振興協会、自然塾 寺子屋、
㈱シバタデザインパートナーズ、㈱ヨコオデイルーフズ

【目的】

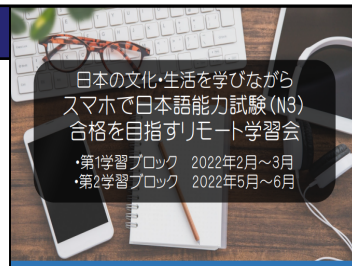
日本には多くの外国人が居住し、これからも増加が予想されます。多文化共生が議論されていますが、実現には、外国人が日本語を修得することが必要と考えられ、その基礎的な学習支援を、Zoomによる遠隔ビデオ通話で実践しました。

【活動内容】

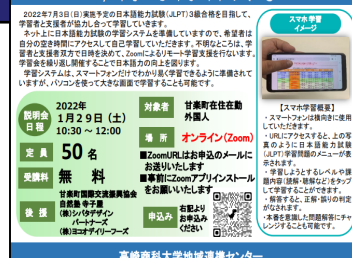
2021年度の活動は、N3受験に向けた準備学習です。自分の時間を有効に活用するため、ネットワーク上に準備した学習教材での学習法を説明したのち、様々な様式の問題を示しながら、一緒に学習していくというものです。なお、説明は全て日本語で行なっています。

【成果・課題】

【成果】甘楽町在住外国人、ハノイ在住のベトナム人学生と交流できたことは、竹上ゼミ学生にとっても、日本語の修得支援を行ないながら国際交流の実体験ができ、非常に有意義なものでした。
【今後】今回は、日本語能力試験N3取得を目標に、N3課題の種類、難易度および学習法について説明をしました。2022年度には、N3受験者を対象として、合格に向けた学習支援を週1回の頻度で開催する予定です。



多文化共生プロジェクト by 高崎商科大学





若者人生設計応援セミナー



若者ライフデザイン講演会の様子



社会人キャリアメンターとのグループディスカッション

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年3月11日 場所：大学構内

参加者：大学生13名、社会人15名 連携先：群馬県

【目的】

個々の生き方や価値観が多様化している現代では、若者には自分の将来を自らの手で切り拓いていく力強さが求められています。そこで、本セミナーを実施することで、若者が高速に変化していく現代社会を「生き抜く力」を身に付けることを目的としました。本事業は群馬県の「若者の人生設計応援！事業補助金」の交付を受け開催しました。

【活動内容】

本事業において、第一段階として若者ライフデザイン講演会ではキャリアデザイン・ライフデザインにおける選択の自由や選択定義の理解を深める内容を行いました。第二段階では、ゲームを通して社会システムや選択の自由、ジェンダー平等を含めた多様化社会の共存について理解し、参加学生自身が講演会・ゲームを通して新しい知識の共有と自己理解を深めました。第三段階として、社会人キャリアメンターとのグループディスカッション&発表では、若者の悩みをできる限り、明確化・言語化することで人生設計の一步を作ることができました。

【成果・課題】

【成果】参加学生の一人一人が自分の生き方を見つめ直し、「自分だけの人生設計（ライフデザイン）」を作り上げる大きな一歩となりました。また、学生のメンターとして多くの社会人が参加し、グループディスカッション等の交流から将来の夢や現在の悩み、今後のキャリアデザインについてアドバイスをいただき、貴重な意見交換を行いました。

【課題】「ジェンダー平等ゲーム」を活用した体験型ワークショップにおいて、ゲームの内容やルール説明に時間がかかってしまい、ゲーム実施時間が少なくなっていました。この辺りを改善し、今後も進めていきたいと考えています。



地域連携活動を通じた学生のエンパワーメント ―地域連携の「シン・ノーマル」―



パネルディスカッションの様子



パネリストからの質問に答える学生

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日時：2022年3月5日 場所：大学構内

参加者数：60名、YouTubeアクセス30名

連携先：高崎健康福祉大学、高崎経済大学

【目的】

地域創造フォーラムは、2013年度より本学の地域連携・社会貢献事業の報告や地域と大学のあり方について考えるシンポジウムとして開催しています。今年のフォーラムは新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、対面形式で実施することに合わせて、YouTubeによるライブ配信も行いました。今回のフォーラムは、地域におけるリーダーや人材を育むため、大学における地域連携セクションや教職員は何をすべきか、内外の事例から新たな地域連携＝「シン・ノーマル」な地域連携のあり方を考えることを目的に実施しました。

【活動内容】

大学と地域との新しいかたちの地域連携の取り組みが展開しており、その意義と今後の展望について基調講演で、福知山公立大学 杉岡准教授にお話しいただいた後、本学と高崎健康福祉大学学生の合同企画について、学生が発表をしました。パネルディスカッションでは、学生の主体性の引き出しと、自律的な活動への初動支援について検討しました。

■基調講演：福知山公立大学地域経営学部/ 杉岡 秀紀 准教授

■学生発表：高崎健康福祉大学・本学

■パネルディスカッション：本学 松元 一明准教授（コーディネーター）福知山公立大学 杉岡 秀紀准教授、高崎経済大学 大宮 登名誉教授、高崎健康福祉大学 金井 敏教授、本学 前田 拓生教授

【成果・課題】

【成果】各大学や各地における新しいかたちの地域連携活動を知ること、本学や参加大学、参加者の今後の地域連携活動へのヒントを得ることができました。また地域連携活動を通じた学生のエンパワーメントについて議論したことも、多くの知見を得ることができました。

【課題】YouTubeのライブ配信では最大30名のアクセスがありました。一方、会場の参加者との議論を増やす等の課題が見えてきました。

高崎市内4大学 地域貢献担当者情報交換会



高崎社会福祉協議会における会議の様子①



高崎社会福祉協議会における会議の様子②

「ふるさと学習」 南八幡小学校・中学校



南八幡中学校での「ふるさと学習」



南八幡小学校での「ふるさと学習〇×クイズ」

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：4か月に1回程度の開催 場所：4大学による持ち回り
連携先：高崎健康福祉大学、高崎経済大学、新島学園短期大学

【目的】

本情報交換会は、高崎健康福祉大学、高崎経済大学、新島学園短期大学と本学の「地域連携担当者」が集まり、大学の現状や、地域連携、地域貢献、ボランティアの実施状況等について情報交換を行うことを目的に実施しています。

2020年度は本学における「地域創造フォーラム」の開催、2021年度は高崎社会福祉協議会への見学など、4大学が連携し、イベント等を実施しています。

【活動内容】

2021年度実施しました本情報交換会は下記の通りです。

第1回：2021年6月23日 場所：高崎経済大学

内 容：他団体との連携について

第2回：2021年9月24日 場所：Zoom

内 容：大学ボランティアセミナー情報共有について

第3回：2021年9月24日 場所：高崎市社会福祉協議会

内 容：ボランティア依頼に関する共通募集書類作成の検討について

【成果・課題】

【成果】ボランティア依頼に関する4大学共通の募集書類作成の検討を行うなど、1大学だけでなく4大学が協力して事業を発展させることについて、具体的な検討を行えたことは成果となりました。

【課題】4大学のスケジュール調整が難しく、昨年度と比較し会議回数が減ってしまったことが課題と考えます。

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日時：2021年12月1日（南八幡中）・2022年1月12日（南八幡小）

参加学生：大学生延べ20名 連携先：高崎市立南八幡小学校・中学校

【目的】

本学学生が、南八幡小学校・南八幡中学校で毎年実施している「ふるさと学習」は、地元の地域資源や歴史等について児童・生徒に学んでもらうことによって、地元ふるさとへの愛着と誇りを涵養することを目的としています。一方、本学学生にとっては、「ふるさと学習」の企画立案と取材、授業の実施を通じて多くの学びが得られることに加え、同じ地域コミュニティで学ぶ児童・生徒との交流の機会となっています。

【活動内容】

2021年12月1日、松元ゼミの学生が南八幡中学校1年生約60名に、山上碑と長利の歴史を追ったオリジナル動画や、上野三碑カルタの解説書を用いた授業をおこないました。最後に、理解を確認するため「ふるさと学習〇×クイズ」で身体を動かしてもらい、大いに盛り上がりました。2022年1月12日には南八幡小学校6年生約60名を対象に、上野三碑や地域の歴史についてYouTubeの動画風に解説し、学習してもらいました。中学校でも盛り上がった「ふるさと学習〇×クイズ」では、学習の成果を確認し、優秀な成績をおさめた10名の児童には「上野三碑カルタ」のほか、ゼミ生手製の上野三碑キーホルダーをプレゼントしました。

【成果・課題】

【成果】クイズを取り入れたことで、より楽しく学んでもらうことができたと考えます。課題は、小学校で受けた「ふるさと学習」の内容が、中学校での内容と重ならない工夫が必要になります。来年度、中学生には探求学習の要素を含めた「ふるさと学習」を計画しています。

「町たんけん」 南八幡小学校



訪問の挨拶をする子供たち



しっかりと質問をし、話を聞く子供たち

ボランティア活動



南八幡小学校1年生 タブレット設定支援ボランティアの様子



「たかさき能」ボランティア

(株)ペリテックによる
「児童向けプログラミング教材」
ボランティア

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日程：2021年10月4日 場所：高崎商科大学
参加児童：南八幡小学校児童14名 連携先：高崎市立南八幡小学校

【目的】

南八幡小学校が毎年実施している「町たんけん」は、住んでいる地域のことを知る生活科の授業の一環で行い、本学を訪ねてくれたものです。大学は、この機会です。子供たちはもちろん引率の先生や保護者の方に大学や地域連携センターの活動を知っていただく機会と捉え、成果物のお渡しや学生の活動状況を伝えています。

また、地元にある大学に、どこからどのような学生が通ってきているのかを、知ってもらう機会でもありと考えています。

【活動内容】

2年生の児童14名は、GIGAスクール構想に伴う小学校のICT教育にて活用しているタブレットを持ち、学内の様子を写真などに納めてゆきました。

大学生にとっては当たり前の、学内のコンビニや自動販売機設置も小学生には驚きの発見となっていたようです。

短い時間内でしたが、大学内の施設見学・大学紹介をしっかりと学んで行きました。また、後に2年生一人ひとりが書いてくれた御礼の手紙も頂きました。

【成果・課題】

【成果】近くで生活をしていながら、日常は大学を訪れる機会はほとんどないのが一般的です。だからこそ、「町たんけん」は良い機会であると考え、積極的に受け入れています。子供たちはもちろん、保護者の皆さま、そして引率の先生方が見えることで、大学の実情をお伝え出来る機会はとても有効です。

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

2021年度 ボランティア依頼件数：40件
2021年度 派遣学生延べ数：140名

【目的】

本学の教育理念（実学教育の重視、地域社会への貢献）に基づき、これまでに習得した知識・技術を、地域活動等の場で実践し、地域貢献における姿勢、考え方、求められるスキルを体得すると共に、社会における協働の意味とその方法を現場から学ぶことを目的としています。

【活動内容】

学習支援ボランティア、タブレット設定支援ボランティア、選挙管理ボランティア、たかさき能ボランティア、東公民館イベント企画ボランティア、フードバンクボランティア、高崎ユネスコ国際児童画展ボランティア、株式会社ペリテック児童向けプログラミング教材ボランティア、第41回群馬サファリ富岡マラソン大会ボランティア、群馬県歴史博物館ボランティアなどに参加しました。

【成果・課題】

【成果】学外での活動においては、自己の責任が伴い、各自の判断だけでなく、他者との関わりにおけるコミュニケーション能力も多くの場面で必要とされます。そのような環境下でボランティアに参加した学生は、自らが考え、または他者と共に考えたりしながら業務を行い、様々な経験を身につけて自身の成長だけではなく、進路選択においても良い経験となりました。

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

アンケート実施期間：2022年4月18日から2022年5月31日

回答方法：学内ポータルサイトアンケート機能利用

対象者：学生807名・教員41名（非常勤を除く）・職員33名

【目 的】

高崎商科大学は2013年度より、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC）事業」に採択され、「地と知から（価値）を創出する地域密着型大学を目指して」というテーマの基、地域と連携した教育・研究活動を推進している。

このアンケートは、本事業の評価指標の一つとして実施するもので、教職員の現状や状況に対する意見・要望について伺うものである。また、学生においては、今後一層の地域連携や地域をフィールドとした教育・研究・社会貢献を進めていくために、学生の状況や大学に対する意見・要望について伺うものである。

【アンケート結果】

回答数	対象者数	有効回答数	有効回答率
学生	807	357	44%
教員	41	36	88%
職員	33	24	73%

※有効回答数のうち群馬県出身者学生231名（県外等126名）

本学が「地域密着型大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることに関しては、教職員は100%、学生は71%が認知していた。また、学生における「地域連携センター」設置の認知度は79%である。なかでも低学年の認知度が低いので入学時当初からの学生に対する働きかけが必要と思われる。

地域連携センターが目標の1つに掲げる「人材育成を通して地域社会の発展に貢献」が、本学にて学んだ学生自身へどのように届いているか、「問：観光まちづくりへの興味関心について」、「問：授業を通して地域課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決につながる知識・理解・能力は深まったか」、「問：大学の講義を通して得た知識・理解・能力を今後、どのように生かしていきたいか」との問いに対するコメントを抜粋し以下に記載する。

「観光まちづくり」への興味関心			授業を通して地域課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決につながる知識・理解・能力は深まったか（2年～4年対象：203名）	
興味がある	44	226	知識・理解・能力が深まった	183
やや興味がある	182		知識・理解・能力が深まったとは思えない（分からない）	20
あまり興味がない	112	131		
全く興味がない	19			

「その知識・理解・能力を今後、どのように生かしていきたいか」との問いに対するコメントを抜粋し以下に記載する。

- ◆群馬県の地域ブランドに焦点を当てて、どのようなPRをすれば魅力度ランキングの順位が上がり、他県の人に知ってもらえるかの考察などに生かしたい。
- ◆社会への貢献や、発展に生かせるような、提案の場や、発言の場があった場合に生かしたいです。
- ◆地元就職の際に、地域の諸課題を解決できる事業やプロジェクトを立ち上げられるようになりたい。
- ◆会計と結び付けて継続的に活動できるようなビジネスを行いたい、または支援したい。
- ◆自ら行動して地域課題の解決に取り組んだり、周囲と学んだ知識を共有することで活かしていきたいと思っています。
- ◆自分は地元が群馬県ではないのですが、講義を受講した結果を地域の地域課題が解決できるよう生かしていきたいと思いました。
- ◆多様な視点から物事見る能力で、問題発見から、解決までの経路を見れるように生かしていく。
- ◆授業を通じてその地域の現状を知ることができたので、その地域の伝統などを守りつつ地域活性化のためにイベントなどを行なったりして活性化に繋げていきたい。
- ◆人口減や魅力など、衰退傾向にある地域を、もっと活性化、賑やかにするために、観光スポットを増やしたり、地域密着型プロジェクトを考えるべきだと感じました。
- ◆その知識・理解・能力はこれからの自分の自信に繋がると思うので、将来就いている仕事で活かしていきたいです。
- ◆就活の際の1つの軸として地域活性化に貢献できているかという事を考えるようになった



文部科学省 平成25年度「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」

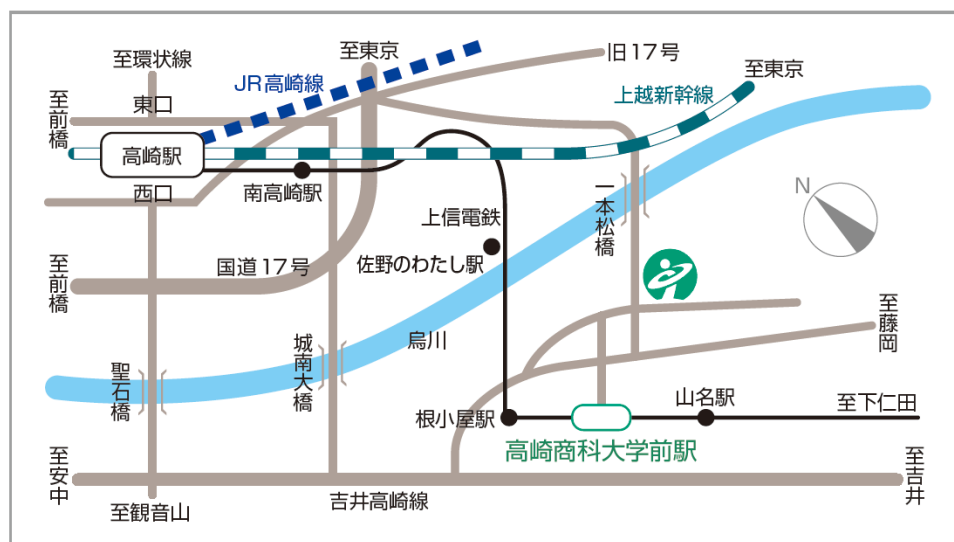
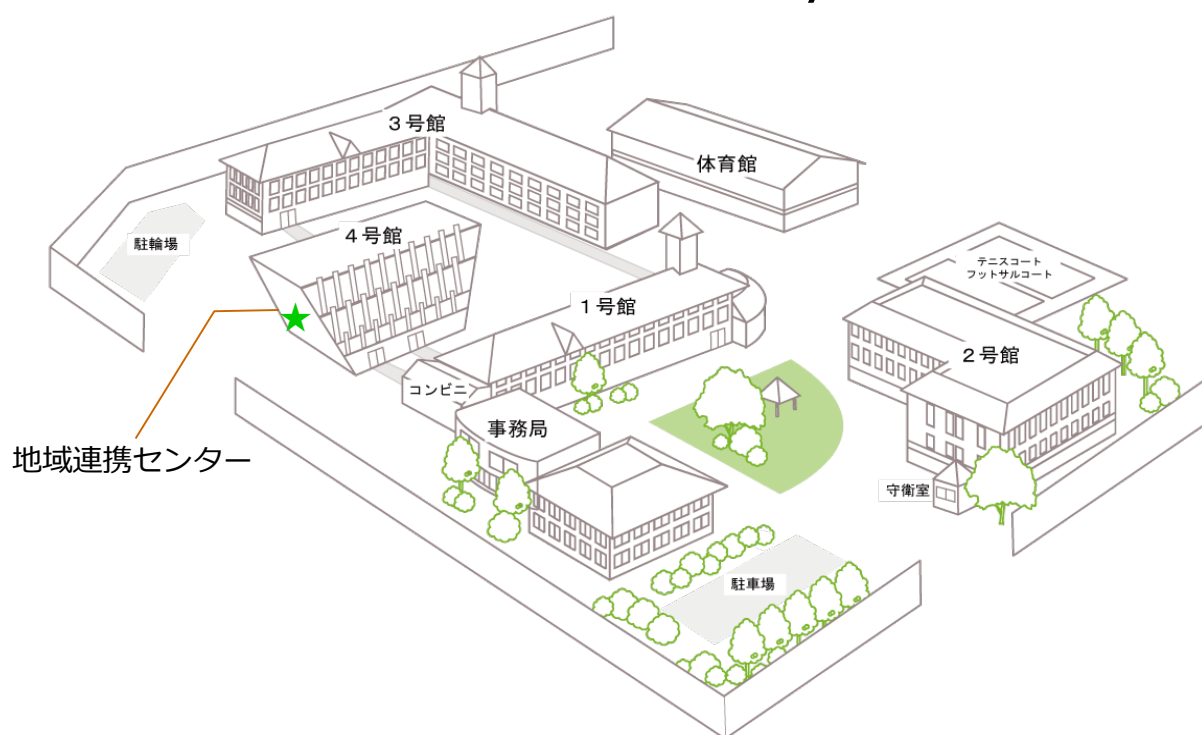
文部科学省「地（知）の拠点整備事業」 平成25年度採択
「地と知から（価）値」を創出する地域密着型大学を目指して
2021年度・成果報告書

発行日 2022年10月

編集発行 高崎商科大学 地域連携センター
〒370-1214 高崎市根小屋町741
TEL 027-347-3350 FAX 027-347-3386
E-Mail cpcjim@uv.tuc.ac.jp

TUC

高崎商科大学 高崎商科大学短期大学部
Takasaki University of Commerce



【電車を利用の場合】

JR「高崎」駅まで
上越新幹線・北陸新幹線利用
JR高崎線「高崎」駅から上信電鉄
「高崎商科大学前」駅まで9分
下車徒歩4分

【バスを利用の場合】

高崎駅西口よりバス（ぐるりんバス）
倉賀野線「佐野小・商科大学コース
【下り】」にて約20分